

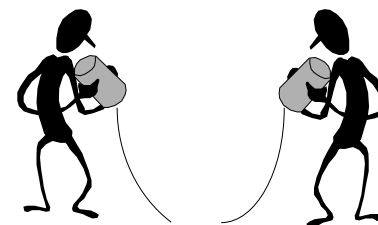
孤独が生み出す不安社会

～孤立を防ぎ、つながりを育むために～

平成23年2月28日

岐阜県政策研究会

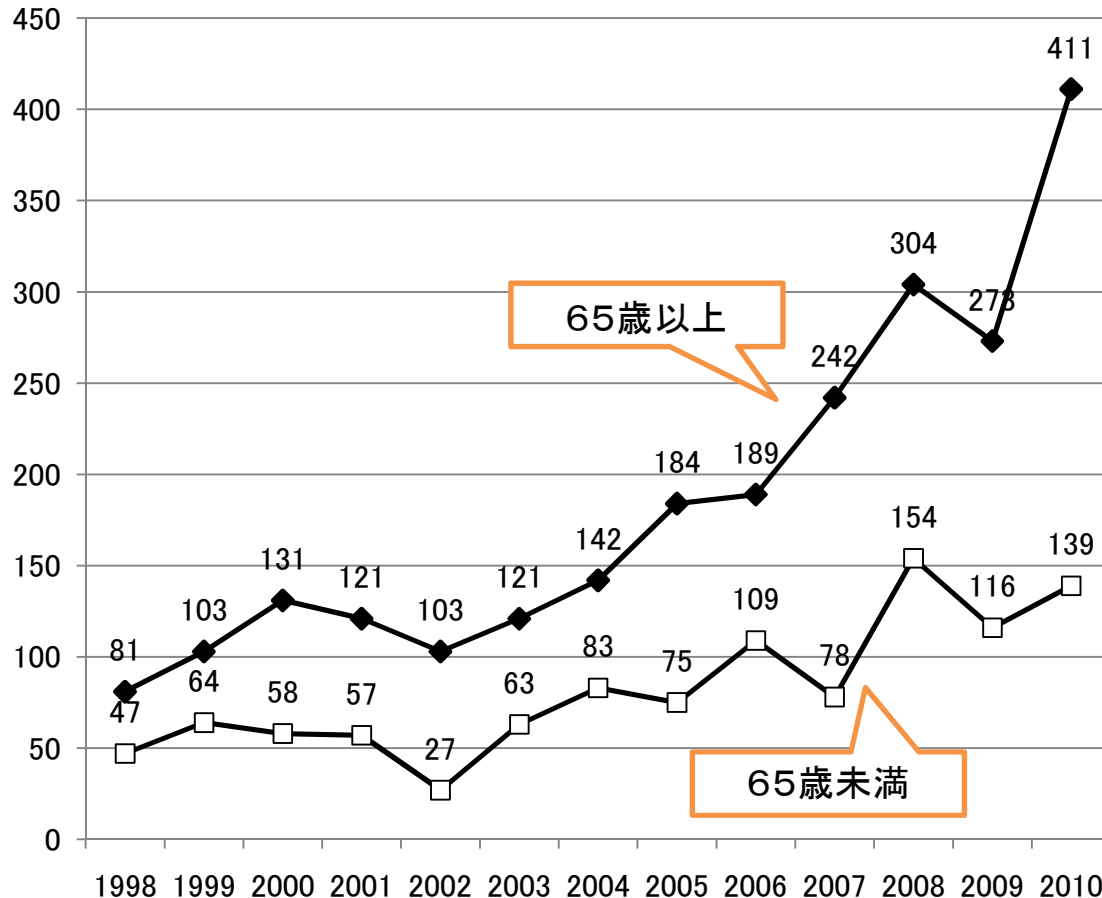
研究員：井戸 孝明（総合政策課）



本レポートの内容や意見は岐阜県政策研究会研究員個人のものであり、必ずしも岐阜県の公式見解を示すものではない。

県内の孤独死は、年々増加しており、身近な存在になってきている。

(人) 1人住まいの方の検視対象数の推移(岐阜県)



(備考)岐阜県警察本部調べ。1人住まいで、自宅、自室(病院、病室、介護施設を含む。)で病死しているのを発見されるなどして、検視の対象となった数を集計したもの(自殺は除く)。

研究員がヒアリングした 県内で実際にあった孤独死事例

○県内在住の喘息の持病を持つ女性
同市内に居住する女性の妹と子どもが、2、3カ月に一度の頻度で連絡していた。
しかし、布団の中で亡くなってから発見されるまで、2週間が経過していた。

○岐阜市内在住の80代女性
毎日見守り隊が訪ねていたお宅だったが、その日は反応が無かった。
民生委員・自治会を交えて入室したところ、ベッドでテレビをつけたまま亡くなっていた。
見守り活動のおかげで亡くなった翌日あるいは当日には発見できた。

**孤独死増加の裏には
きっと何か根深いものがあるのではないか。**

孤立化／孤独死の背景を探るため、先駆的に取材を重ねてきたNHK番組「無縁社会」の関係者等にヒアリングを行った。

○NHK「無縁社会プロジェクト」取材関係者

板垣 淑子 氏、野林 亮 氏

☆30代男性

- ・新潟出身で都心でひとり暮らし。
- ・若い頃に両親離婚。母親は育児放棄に。
- ・非正規雇用として働くもうつ病になり、現在は生活保護。
- ・外出時の何気ない挨拶から小学生との交流がはじまり、生きていることを実感。

☆50代男性

- ・仕事一筋で生きてきたが過労で体調を崩し失業。
- ・その後離婚、生きる意味を見失い自殺未遂。
- ・自殺防止NPOに救われ、共同生活をする中で自分の新しい役割を発見。
- ・NPO職員としてひとり暮らし、人生の再スタートさせる。

☆70代男性

- ・借金の連帯保証人となったことが原因で家業が倒産し、離婚。
- ・地元に残して上京。嫁いだ姉とも疎遠に。
- ・正社員として働き、定年後も派遣労働に従事してきた。
- ・自宅で亡くなってから一週間以上経って発見されるが、「氏名不詳」として、両親とは別の無縁墓地に埋葬される。

○孤独死対策に先進的に取り組む

千葉県松戸市常盤平団地自治会会長

NPO法人孤独死ゼロ研究会会長

中沢 卓実 氏

☆孤独死する人、孤立する人は「ないない尽くし」の人。

配偶者がいない、友達がいない、会話がな
い、挨拶をしない、近隣関係がない、地域の催しに参加しない、
人のことを考えない、関心を持たない。



☆60代男性

- ・発見されたときは死後3年が経過。すでに白骨化。
- ・亡くなって白骨死体になってからも3年間毎月家賃等を払い続けていた。

☆50代男性

- ・発見された時は死後4か月が経過
- ・発見のきっかけはベランダの網戸一面にひろがるハエの群れと悪臭。
- ・この方は家庭内暴力をしていて妻、子と別居。発見当時は部屋は散らかし放題。

○家族との関わりがなくなった方の身元保証、生活支援、葬送支援を行う

「NPO法人きずなの会」岐阜事務所長

住 昇 氏



☆老人ホームに入所する高齢者

- ・「観劇に行きたい」と言う。
- ・入所していてもその老人ホームとの提携店ならば、ケアマネで対応するのだが、流石に観劇はその提携リストには入っていない。
- ・頼ることのできる家族がいないため、当会が家族の代わりをして、観劇へ連れていくこととなった。

☆ひとり暮らし男性

- ・入院中。経済的には豊か。娘は小牧。
- ・娘は忙しいためなのか、男性をほとんど訪ねてこない。ほとんど断絶状態。
- ・これを見かねた周囲の人が男性に当法人への入会を勧めるのだが、男性は親として心情的な整理ができないようで、入会せず。

きずなの会岐阜 会員の属性と団体の概要

- ◇県内会員：会員数：約310人(現支援対象者数)。累計会員数：約470人
年間90人ほどの入会
- ◇会員資格：高齢者(60歳以上)、障がい者（目安は介護保険の利用可能性の有無）
- ◇主な属性：何らかの理由で家族に頼ることができず、
不安を抱えるひとり暮らし高齢者。(男性女性問わず)
会員の8割は、兄弟など親族がいても、その親族に頼れない、頼りたくない人。
- ◇設立：2001年9月。法人登記は2007年1月。
- ◇事務所：本部は名古屋。全国に11事務所。事務所を全国各地で拡大中。
- ◇活動概要：行政や既存制度ではできない、家族・親族がすべきとされている事
(身元保証、生活支援、葬送支援など)を
きずなの会及び提携する弁護士法人が連携して支援するもの。
- ◇費用：約180万／人
(施設入所等手続代行、財産管理、緊急支援、葬送支援まで。
余れば相続人に返金。)

(きずなの会岐阜へのヒアリング及び岐阜県公表資料より作成)



○たとえば、どういう人が、どういう時に
孤立状態になりやすいのか／孤立を感じるのか



○「孤立」は、誰もが各々の営む生活の中で遭遇し得るもの。

(妊娠、子育て中の人、介護をしている人、ひとり暮らしの人、仕事を失った人、
愛する存在(家族、友人、ペット等)を失った人、家族と疎遠になってしまった人 etc)



ここでは、各氏共通の意見として挙げられた

- ◆ひとり暮らし高齢者
- ◆ひとり暮らし男性
- ◆介護をしている人
- ◆妊娠、子育て中の人



この4つのケースにスポットを当てて、
孤立に至る傾向を分析した。

◆ ひとり暮らし高齢者



○高齢ひとり暮らし女性の話

- ・ 3カ月誰とも会話しない生活を一度経験してみてください。
- ・ 人は、1か月誰とも会話をしないと次第に声を失い、人と会うことが億劫になり、うつ状態に陥る。
- ・ ひとり暮らし高齢者の消費者トラブルが問題になっているが、彼らの中にはただ、人と話したいだけという人もいる。

(NHK資料、板垣氏へのヒアリングより)



どのような孤立状況に置かれているかを検証してみる

生活実態

社会との関連性を持たない人が多い。繋がりやの薄さが生きがいや日常生活の不安に結びついている可能性も。

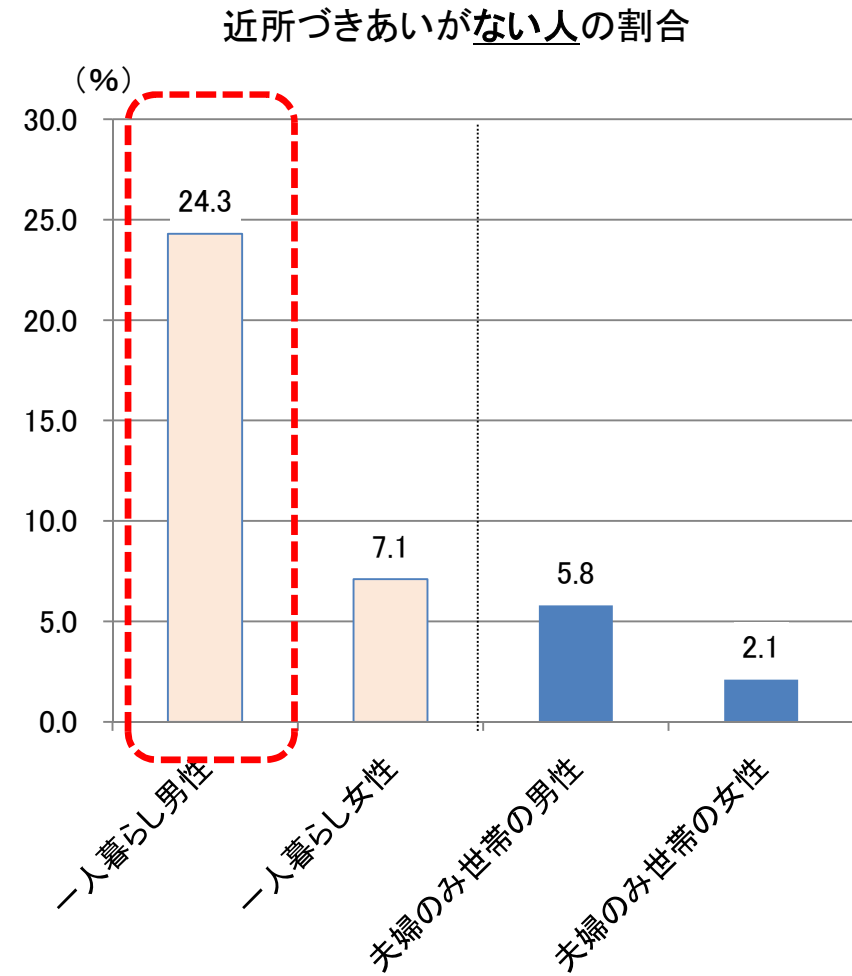
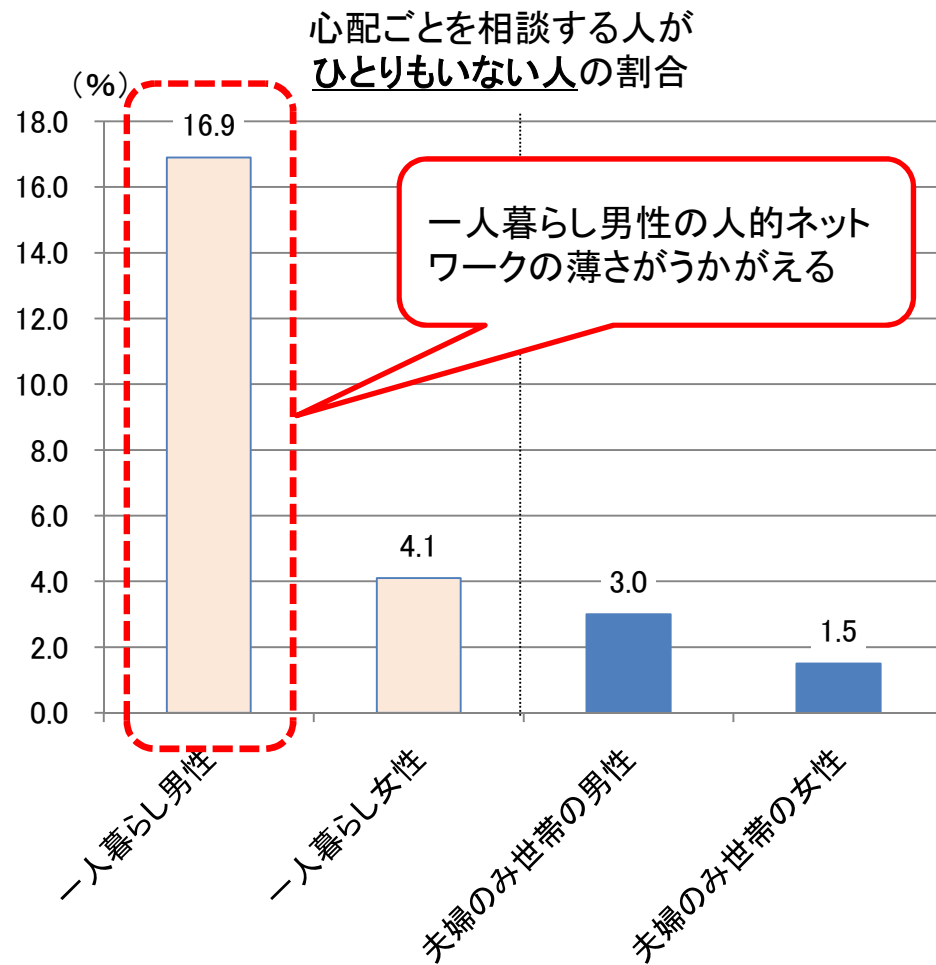
	2008年度						2009年度			
	日頃の会話の頻度が 1週間に1回以下	日頃、町内会や老人会、 婦人会など地域の活動 をしていない	日頃、ボランティアや 奉仕活動をしていない	日頃、趣味やスポーツ 活動をしていない	日頃、友人との 付き合いをしていない	頼れる人がいない	近所づきあいは ほとんどない	孤独死について 身近に感じる	日常生活全般について 生きがいを感じていない	将来の日常生活への 不安を感じている
一人暮らし	8.2	48.4	68.0	40.2	11.4	14.0	11.9	64.7	29.8	77.5
夫婦のみ	0.9	31.3	52.9	30.2	4.0	4.0	5.0	44.3	17.8	72.8
それ以外	1.3	34.9	53.3	36.2	7.0	7.0				
二世帯世帯							5.3	4.1		
三世帯世帯							4.1	29.7		
本人と親									21.2	81.1
本人と子									22.1	72.7
本人と子と孫									13.4	59.2

内閣府「高齢者の生活実態に関する調査」(2008年度)

「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」、「高齢者の日常生活に関する意識調査」(2009年度)

近所等とのつきあい

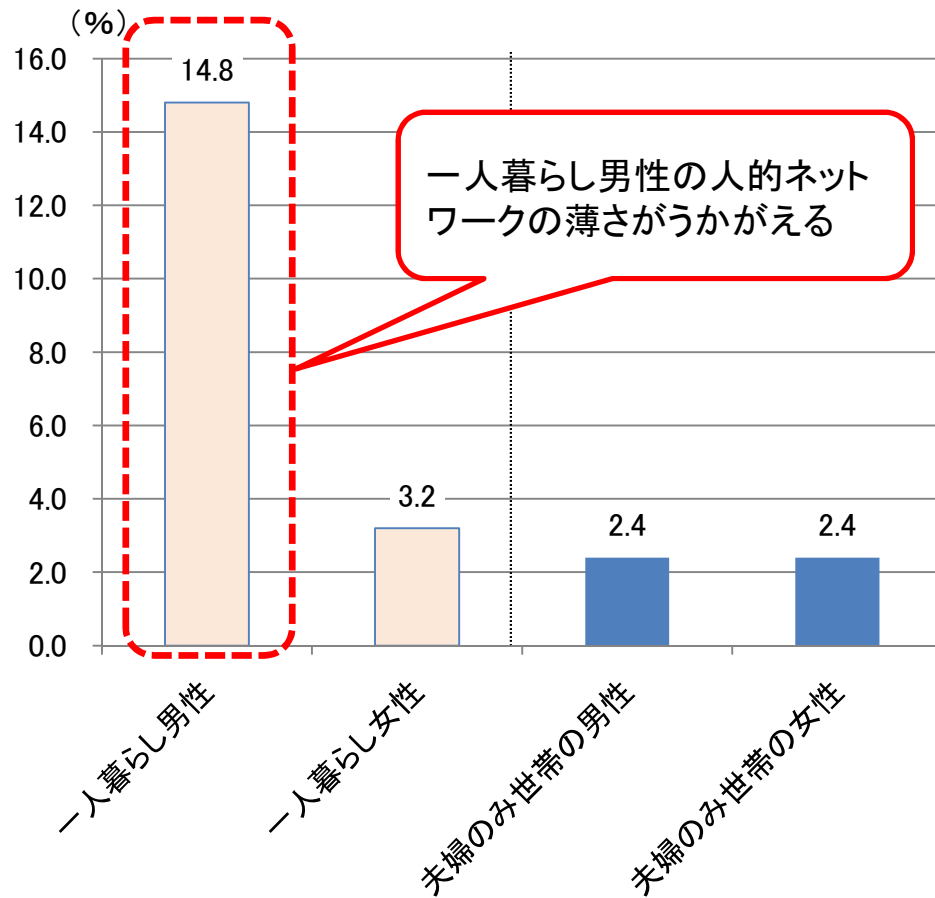
特に一人暮らし男性高齢者は、心配事の相談相手、近所づきあいがない人が多い。



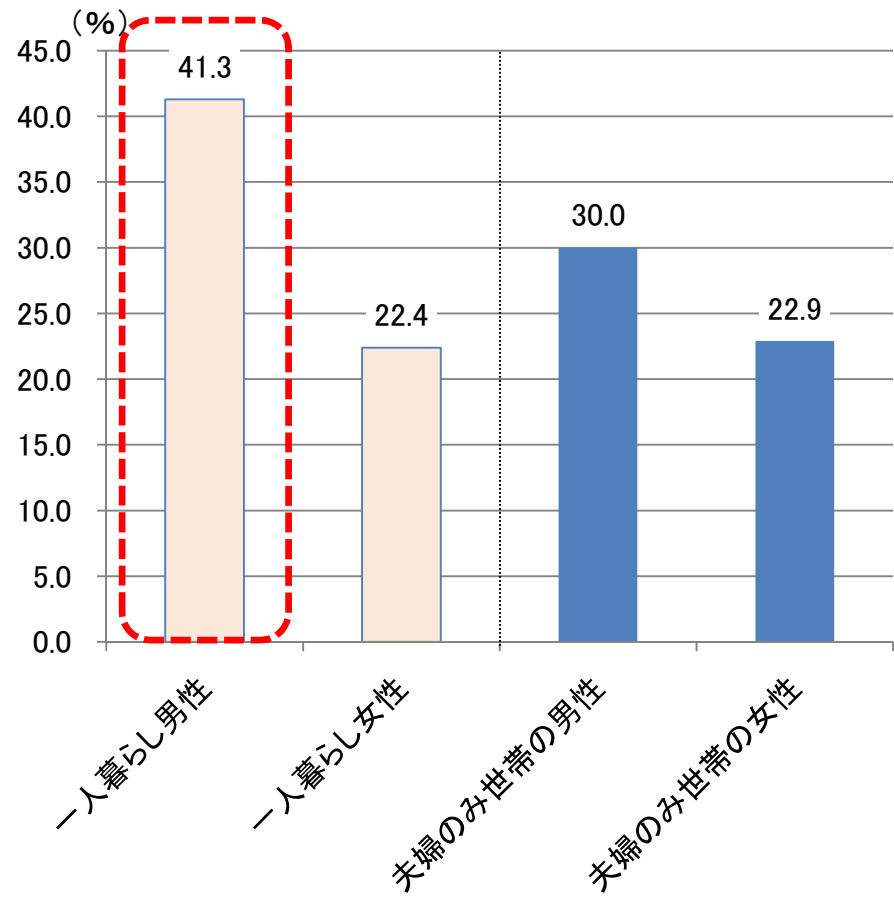
(備考)内閣府「世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査」(H17)により作成。

親戚づきあい、友人づきあいのない人が多いのも一人暮らし男性高齢者。

親戚づきあいがほとんどない人の割合



友人づきあいがいない人の割合



(備考)内閣府「世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査」(H17)により作成。

◆ ひとり暮らし男性



○50代男性

- ・ 仕事一筋で生きてきたが過労で体調を崩し失業。
- ・ その後離婚、生きる意味を見失い自殺未遂。
- ・ 自殺防止NPOに救われ、共同生活をする中で自分の新しい役割を発見。
- ・ NPO職員としてひとり暮らしを始める。

(NHK資料、板垣氏へのヒアリングより)

○60代男性

- ・ 家庭を顧みずに働いた結果、妻子が家を出て行く。
(後に離婚)
- ・ 別居生活中的の40代にうつ病を発症したものの、なんとか定年を迎える。
- ・ 定年後、経済的に問題はないが、ひとり孤独に死にたくなないと老人ホームに入居。 (NHK資料、板垣氏へのヒアリングより)



なぜ、ひとり暮らしの男性が、孤立しやすいかを検証してみる

大まかな
パターン

職場での人間関係が唯一の社会との接点となっている
(なりがちな) 男性

ひとり暮らし

世帯持ち

心身機能の低下等

有配偶者の週60時間以上就業者割合
・男性(夫): 16.9%(全国17.3%)
・女性(妻): 4.2%(全国 4.2%)

失業・退職・非正規雇用化

↓

経済基盤の脆弱化等

↓

孤立化

配偶者・家族との離別

↓

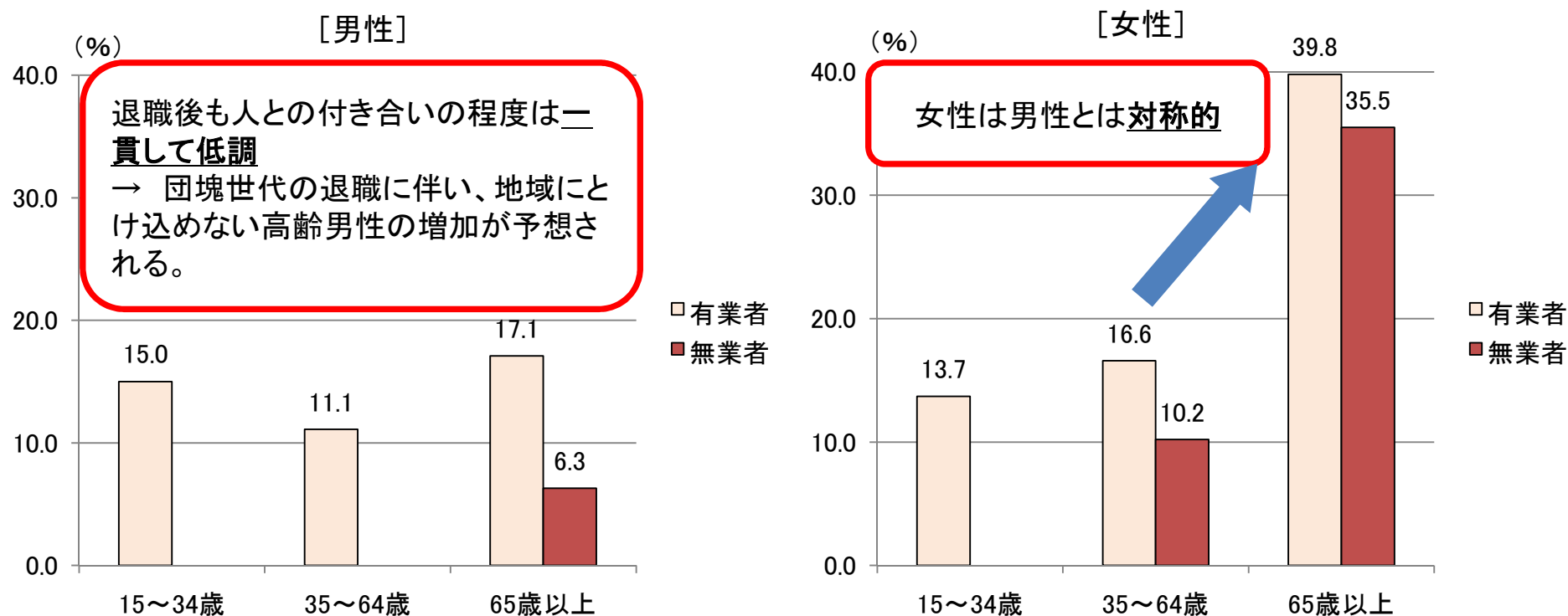
孤立化

なぜ特に男性はこうなのか？

- ◆男性は女性と比べて、子育て、ゴミ出しなど、地域の人と関わるようなライフスタイルを持っておらず、配偶者や子らと離れた男性は、まさしく「ひとりぼっち」。
- ◆男性は、居場所と役割(仕事)を与えられると動くが、そうでないと自らは動けず、ゼロから人とのつながりを作れない。
- ◆男性はプライドが高いためか、いざという時に家族を含め誰かを頼ることができない。

会社との縁が切れた男性は 新たに人とつながりをつくることが不得手

単身者の「交際・つきあい」の時間をもつ人の割合(岐阜県)



(備考)総務省「社会生活基本調査」(H18)により作成。

※15~34歳男性、35~64歳男性及び15~34歳女性は、当該属性の標本数が皆無の場合及び標本数が10未満で、結果精度の観点から表章していないものであり、つまり極めて0に近い値である。

ひとり暮らし現役世代の時間の使い方

人との関わり方は、男性は女性に比べて消極的。
 ← 長時間労働による時間的制約も影響か。

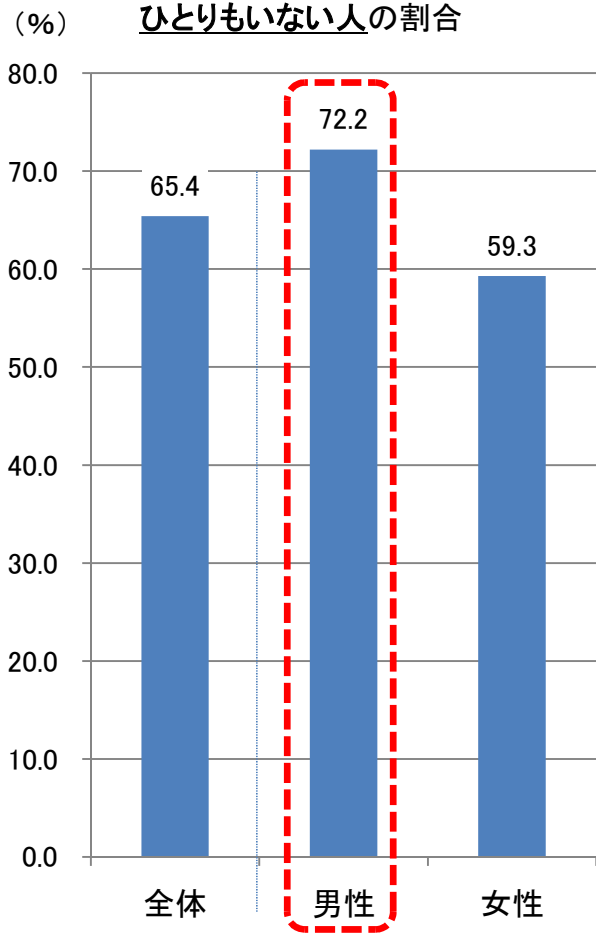
単身現役世代(35~64歳)の生活時間(1日あたり平均時間、岐阜県)

男性			女性		
1位	仕事	7時間42分	1位	仕事	6時間10分
2位	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2時間11分	2位	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2時間35分
3位	食事	1時間11分	3位	身の回りの用事	1時間26分
3位	休養・くつろぎ	1時間11分	4位	家事	1時間23分
5位	身の回りの用事	1時間04分	5位	食事	1時間22分
6位	趣味・娯楽	43分	6位	休養・くつろぎ	59分
7位	移動(通勤・通学を除く)	41分	7位	交際・付き合い	41分
8位	交際・付き合い	31分	8位	移動(通勤・通学を除く)	40分
8位	通勤・通学	31分	9位	通勤・通学	29分
10位	家事	13分	10位	買い物	19分
⋮	⋮	⋮	10位	趣味・娯楽	19分
⋮	⋮	⋮	12位	ボランティア活動・社会参加活動	9分
⋮	⋮	⋮			
16位	ボランティア活動・社会参加活動	0分			

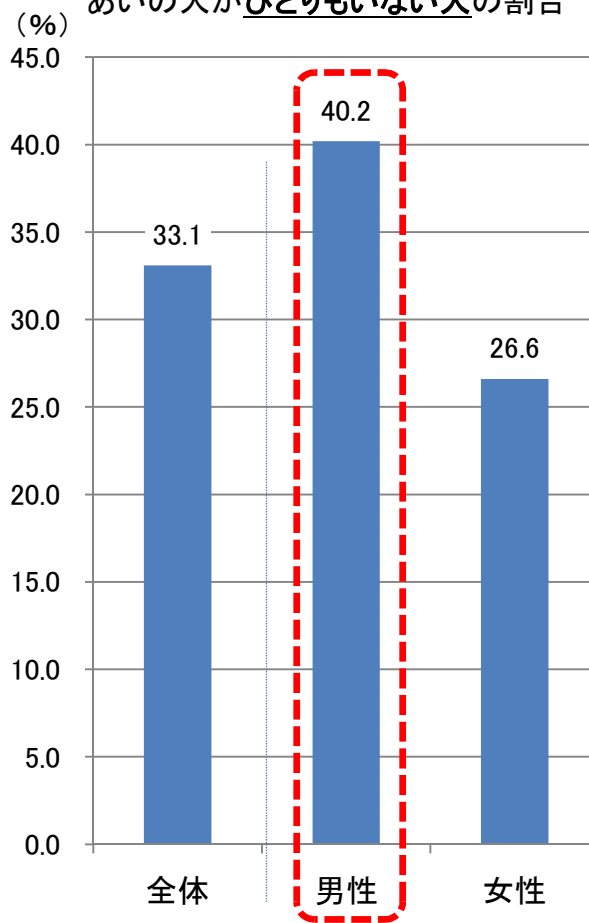
(備考)総務省「社会生活基本調査」(H18)により作成。

近所づきあいの希薄さが目立つ。特に男性で顕著。

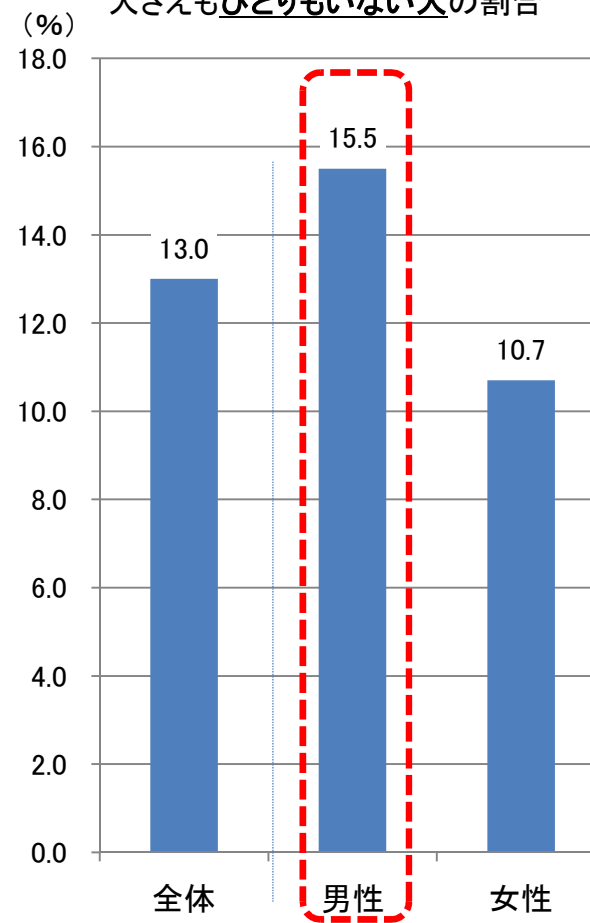
互いに相談したり日用品の貸し借りを
するなど、生活面で協力しあっている人が
ひとりもない人の割合



日常的に立ち話しをする程度のつき
あいの人がひとりもない人の割合



あいさつ程度の最小限のつきあいの
人さえもひとりもない人の割合

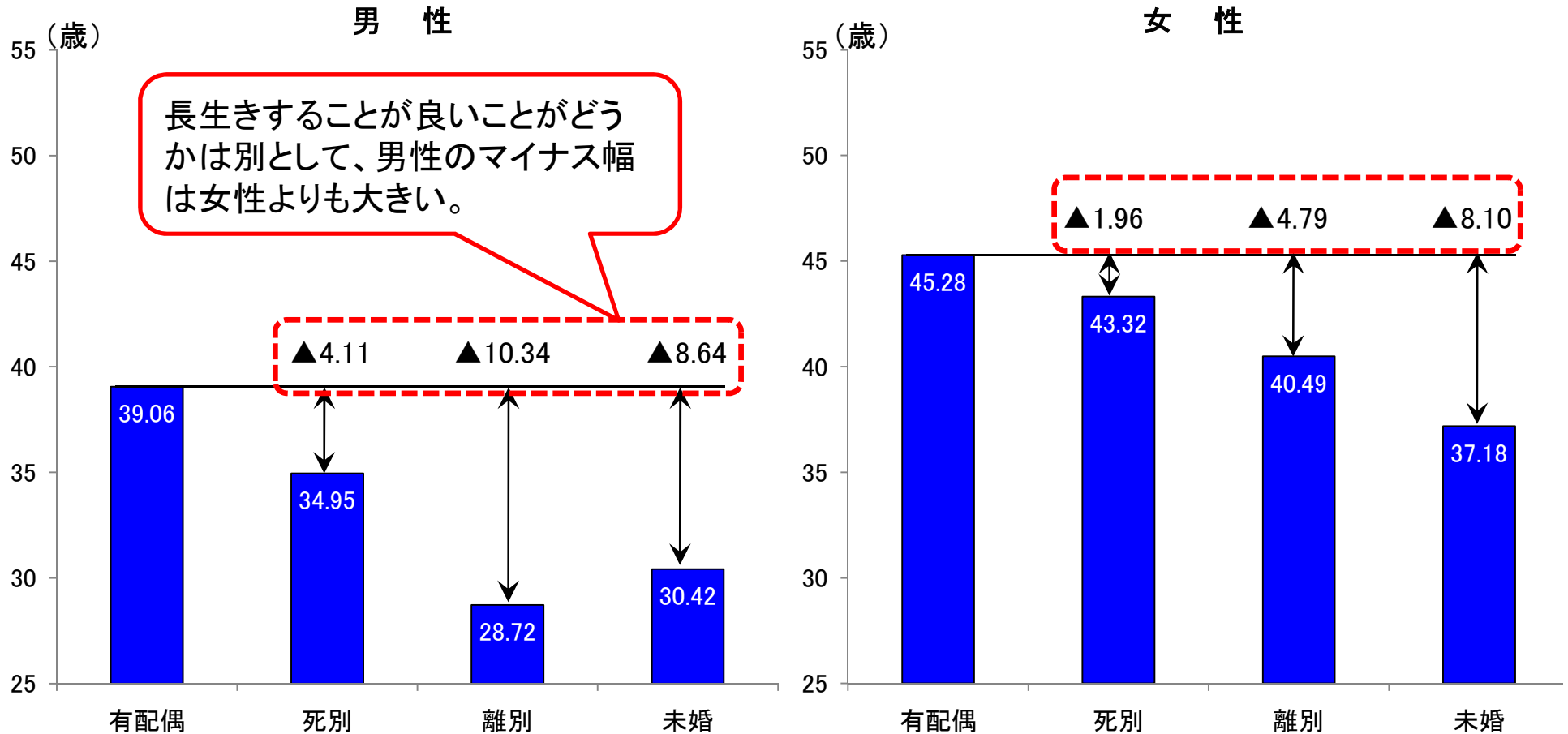


(備考)内閣府「国民生活選好度調査」(H18)により作成。

【参考】配偶関係別平均余命

配偶者がいないと寿命は短くなる傾向。特に男性で顕著

配偶関係別 40歳時の平均余命



(備考) 国立社会保障・人口問題研究所「人口問題研究」第55巻第1号により作成。

◆ 介護をしている人



○30代女性

- ・父親の介護に専念するために仕事を続けられなくなった。
- ・毎日、父親の病院に通う。
- ・同世代の家庭を持つ友人たちと疎遠に
- ・結婚を考える余裕もなく、将来の孤立が不安でインターネット中継を始めた。

○40代男性

- ・親子2人で力を合わせて仕事をしていた。
- ・その後は父親の介護に追われるようになる。
- ・父親が亡くなり、一人暮らしに。
- ・「初めて身に染みた。話し相手がないのがこんなにつらいことだと」

○70代女性

- ・父親を早くに亡くす。
- ・看護師の仕事と実母の介護で手いっぱい結婚できず。
- ・働いて貯めた貯金で、40才の時にマンションを購入。以来一人暮らし。
- ・「一人ずつのお墓はイヤ、さみしいから」と合同墓地に生前契約。



(NHK資料、板垣氏、野林氏へのヒアリングより)

介護と仕事の両立の難しさをデータで確認してみる。

独身・片親とのふたり暮らし／親以外に頼れる親族がない

親が「家族による介護」が必要な状態に

介護と仕事を両立できず離職 → 失業、非正規雇用	介護と仕事で精一杯のために 結婚できず
-----------------------------	------------------------

職場の人・親しくして
いた友人と疎遠化

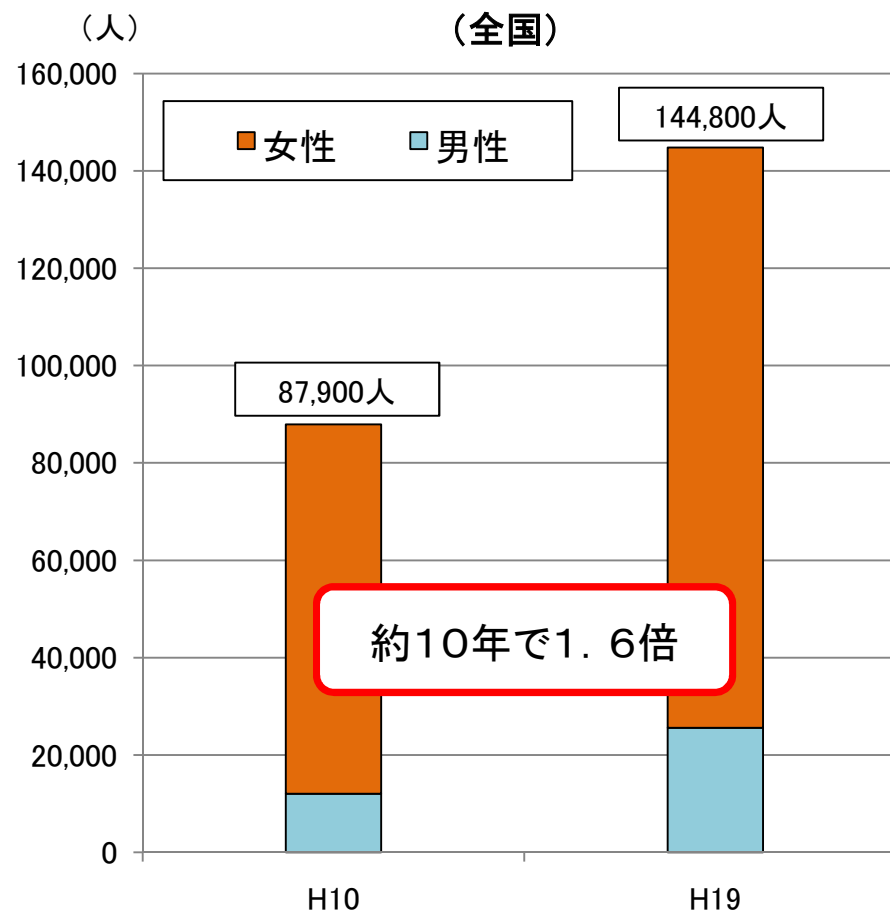
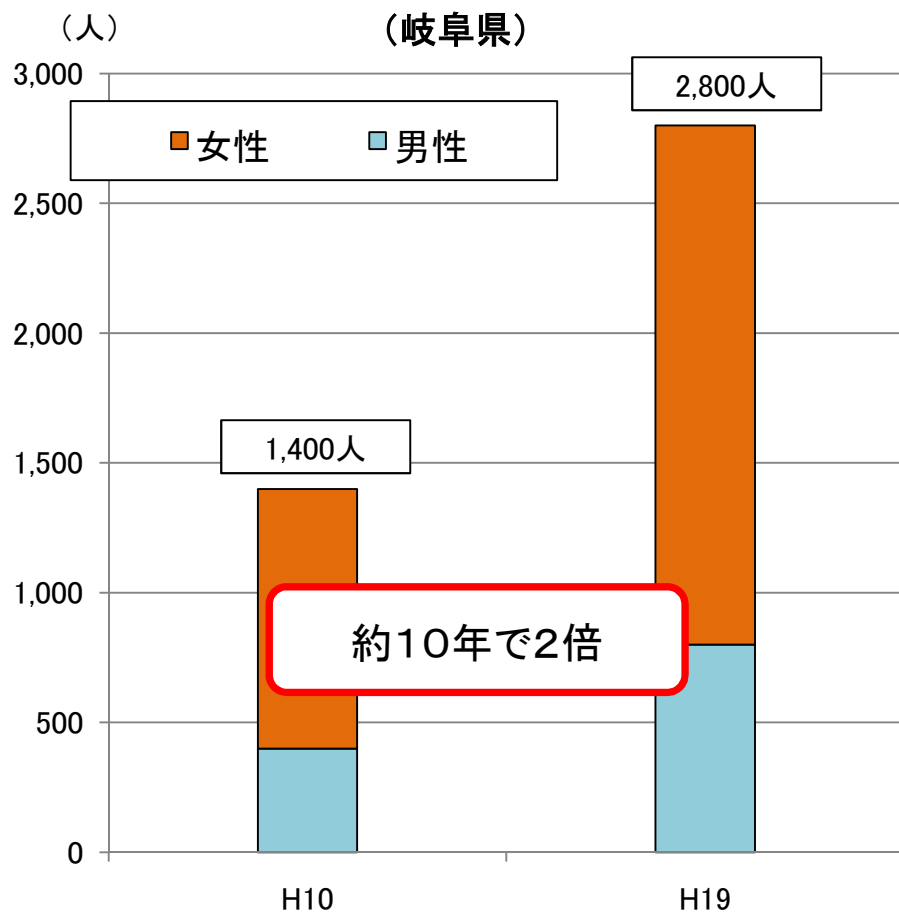
親の死

孤立化

介護理由による離職者数

家族の介護や看護のために前の会社を辞めた人は2,800人。約10年で2倍に増加。全国でも同様の傾向。

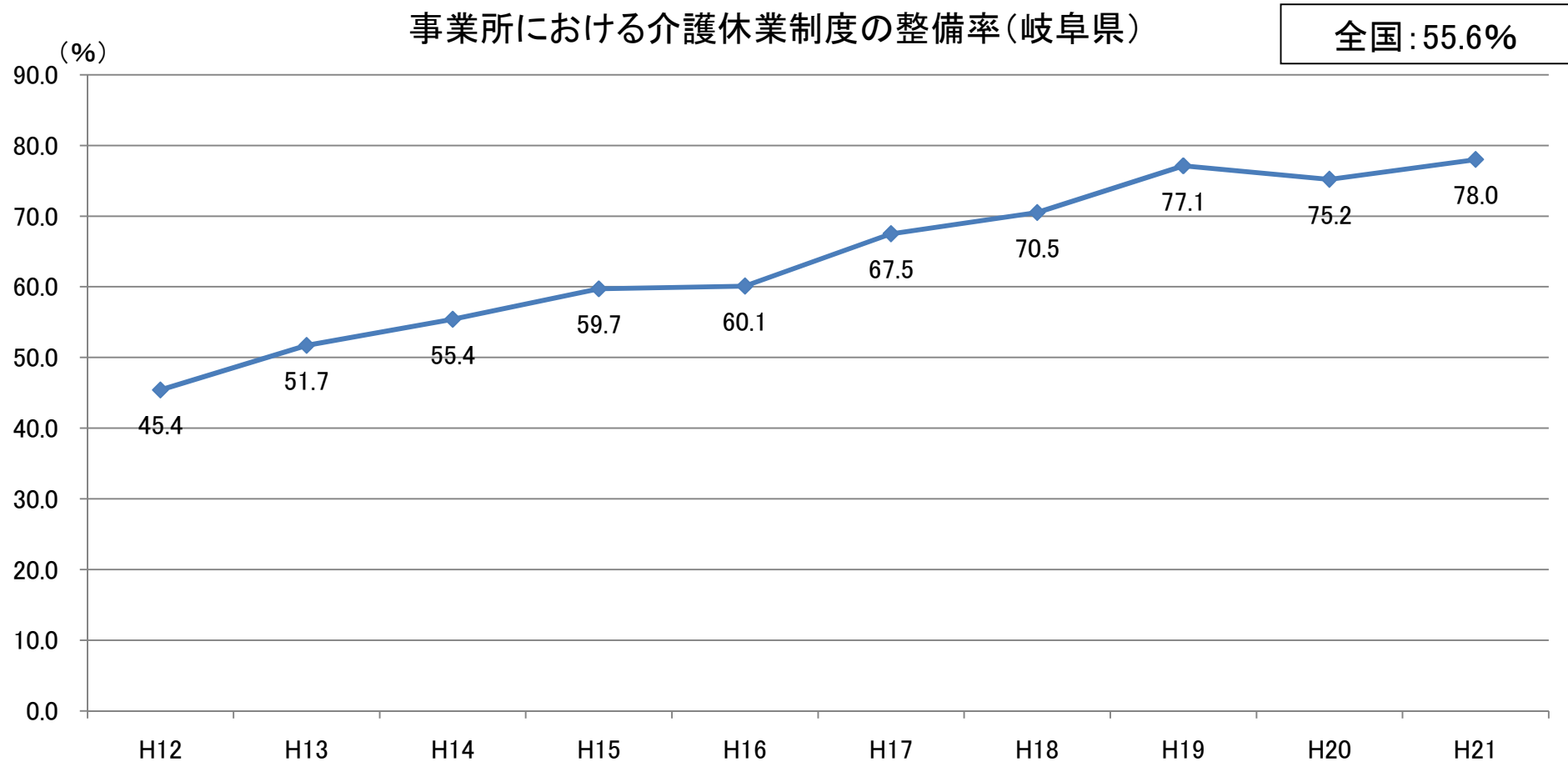
家族の介護・看護のために前職を離職した者の数



(備考)総務省「就業構造基本調査」により作成。各年は、前年の10月～当年の9月の1年間をさす。例:H19=H18.10~H19.9。

介護休業制度の整備率

一方、県内事業所の介護休業制度の整備率は78%。
全国の55.6%を大幅に上回っている。



(備考)岐阜県「労働条件等実態調査」により作成。調査対象は常用労働者10人以上の民間企業の1,400事業所。
ただし、全国の値は常用労働者5人以上の10,025事業所。

- 既存の各種介護関連制度の周知徹底はもちろん、
- 少子高齢化と核家族化で家族の介護力が弱まり、独身の子どもによる介護が珍しくなくなる中、介護をしながらでも、働き続けられる環境整備が求められる。



制度利用実績

(H20.4~H21.3の1年間)

【制度を利用した事業所の割合】

◆3.1% (※前年は1.6%)

【介護休業取得者数】

◆女性:17人 (※前年は15人)

◆男性:3人 (※前年は2人)

※参考1 (全国のデータ)

常用労働者に占める介護休業取得者の割合(H17)
<男性:0.02%、女性0.08%>

※参考2 (広島県のデータ)

介護休業を取得しない理由

(男性)

- 1位 他に介護してくれる人がいる
- 2位 休業中の収入が減少する
- 3位 上司や同僚に気兼ねする

(女性)

- 1位 会社で介護休業をとった例がない
- 2位 上司や同僚に気兼ねする
- 4位 休業中の収入が減少する

◆ 妊娠、子育て中の人

○電車の中やレストランなどで子どもが泣いていると非常に邪魔な目で見られる。

○親同士の心のつながりを持つ機会も少ない。
心理的にホッとできる環境がない。
安心して子どもを託しあえる、相談できる人がいない。

○育児に関する不安をひとりで抱え込んでしまい、
育児ノイローゼ、児童虐待に至るケースも。

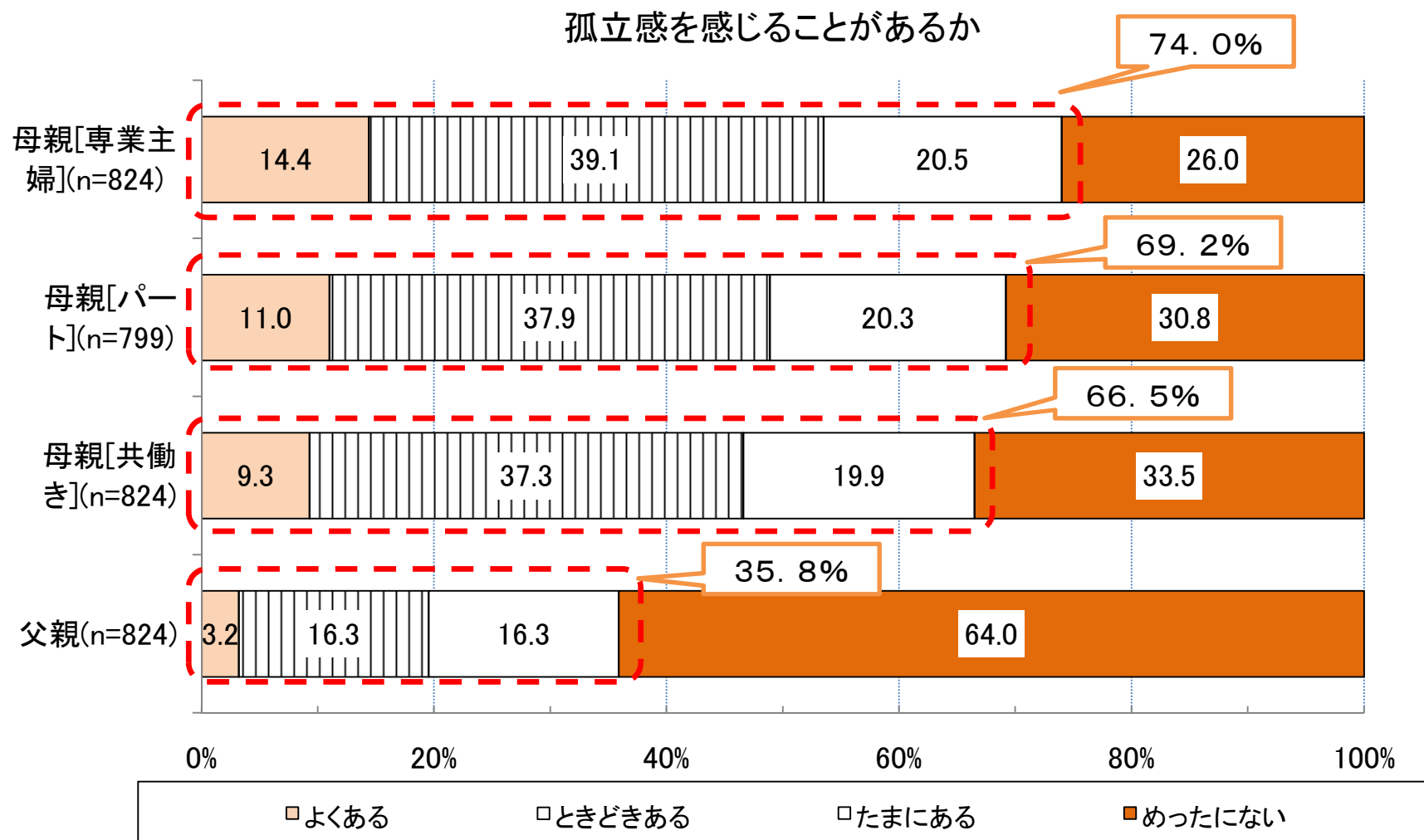
(岐阜県少子化対策基本計画、岐阜県子ども虐待防止の手引きより)



子育てに孤立感を抱える状況をデータで確認してみる。

子育ての孤立感

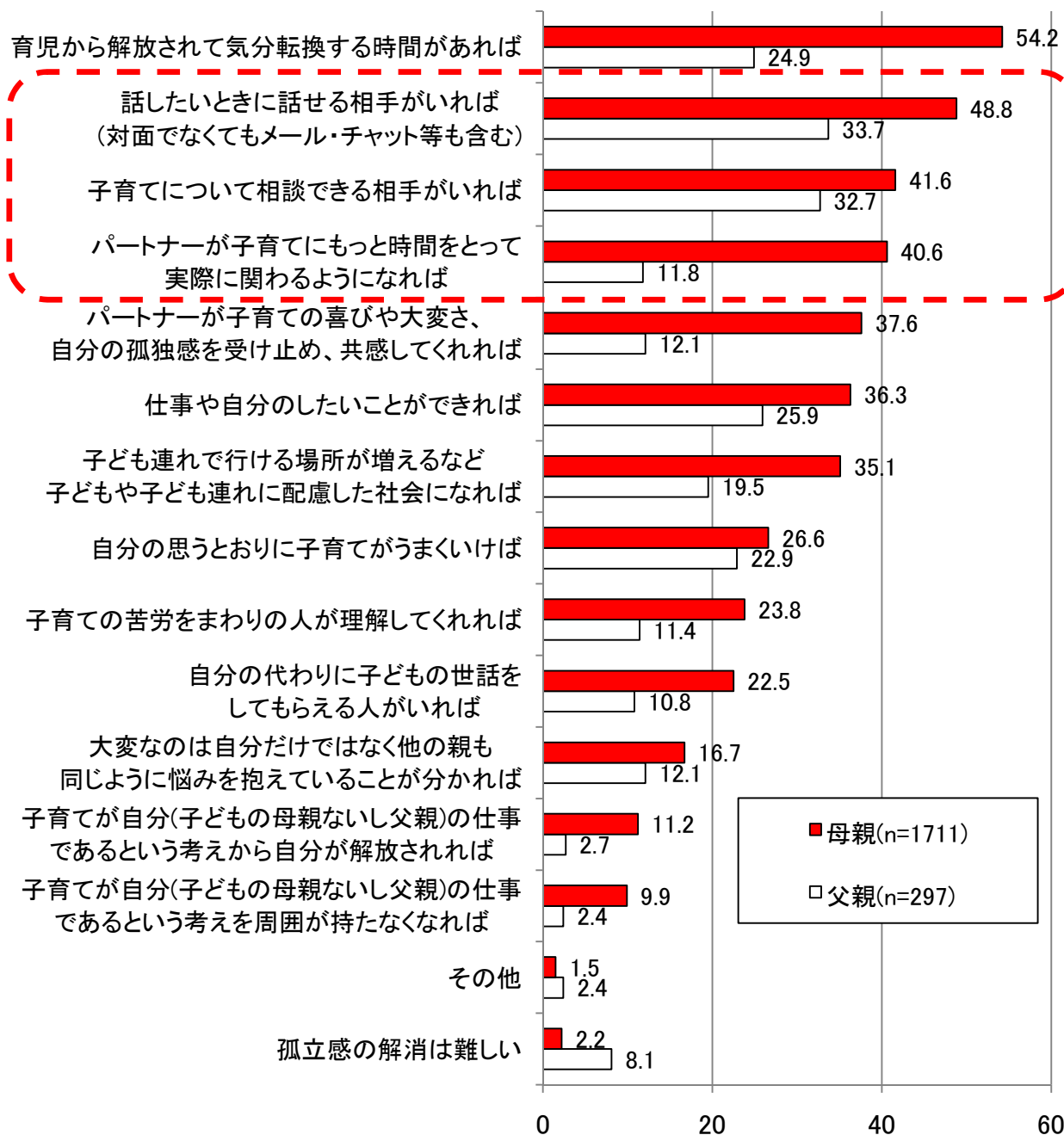
子育てに関する孤立感を感じる母親の割合は高い（特に専業主婦）



(備考)内閣府「子育てに関する意識調査報告書」(H18)により作成。

孤立感を解消するには

(備考)内閣府「子育てに関する意識調査報告書」(H18)により作成。



孤立感を解消する
ために求められて
いるのは、

◆育児から解放さ
れて気分転換す
る時間

◆話せる相手

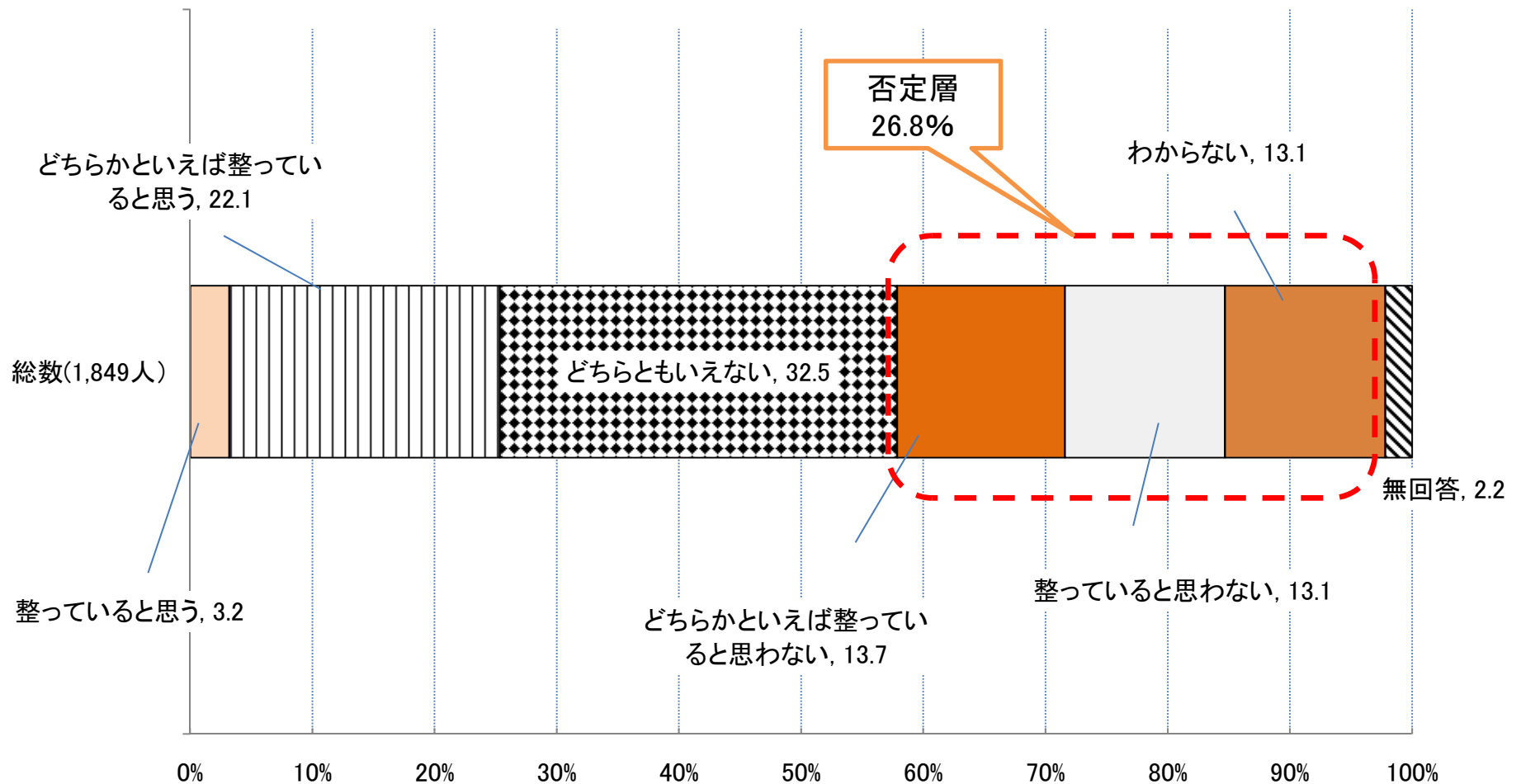
◆相談できる相手

◆パートナーの子
育ての関わり等

地域で子育てを支える体制

地域全体で子育てを支え、負担を分かち合う体制が整っていると思わない人が27%。

地域全体で子育てを支える体制が整っているか



孤立を生み出している社会的背景

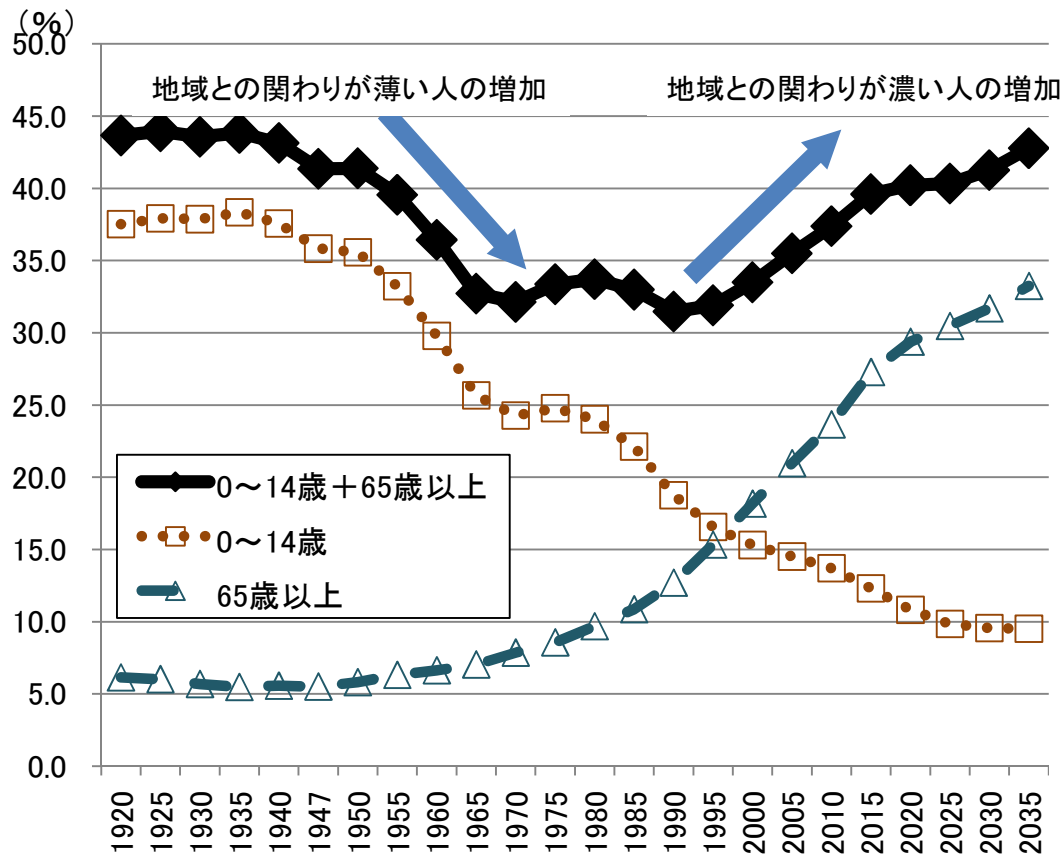


- 1 人口、世帯構造の変化
- 2 雇用・就労環境の変化
- 3 居住形態の変化
- 4 人との関わり方の変化
- 5 ある程度稼ぎがあり、健康であれば、一人でもそれなりの生活の質を保ちながら生きていくことが可能になった。

1 人口構造の変化

- 戦後から高度成長期を経て、最近までは、地域への土着性が強い人々（子ども・高齢者）は一貫して減少。
- 「地域との関わりが薄い人々」（現役世代）は増え続けた。

子どもと高齢者の人口比率の推移



- ライフサイクルにおいて、「子ども」と「高齢者」は地域への土着性が強いことを踏まえると
- 現在以降は、これまでとは逆に「地域との関わりが強い人々」が一貫して増加していく時代に入ると言える。



「つながり」というものが今、重要なものとして認識されつつあるのは、ある意味自然な成り行き。

(備考)総務省「国勢調査」、広井良典「コミュニティを問いなおすーつながり・都市・日本社会の未来」により作成。2010年以降は岐阜県将来構想研究会による推計値。

2 世帯構造の変化

単身世帯割合の増加

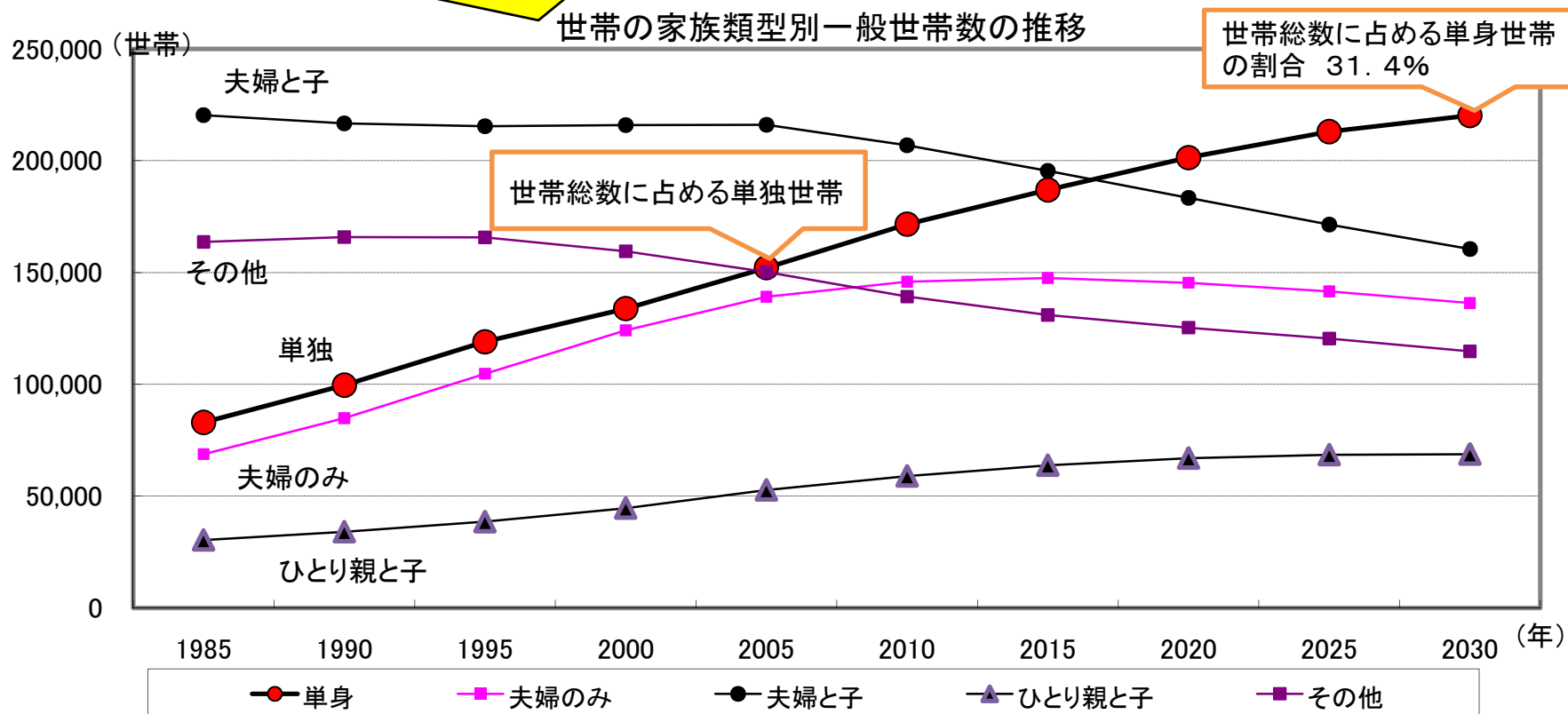
単身世帯は今後も一貫して増加し、最も多くを占める世帯となる。2030年には総世帯数の3割超が単身世帯に。

平成22年度国勢調査(速報)によると

◆人口: 2,081,147人 (H17比で26,079人減)

◆世帯: 736,555世帯 (H17比で23,103世帯増)

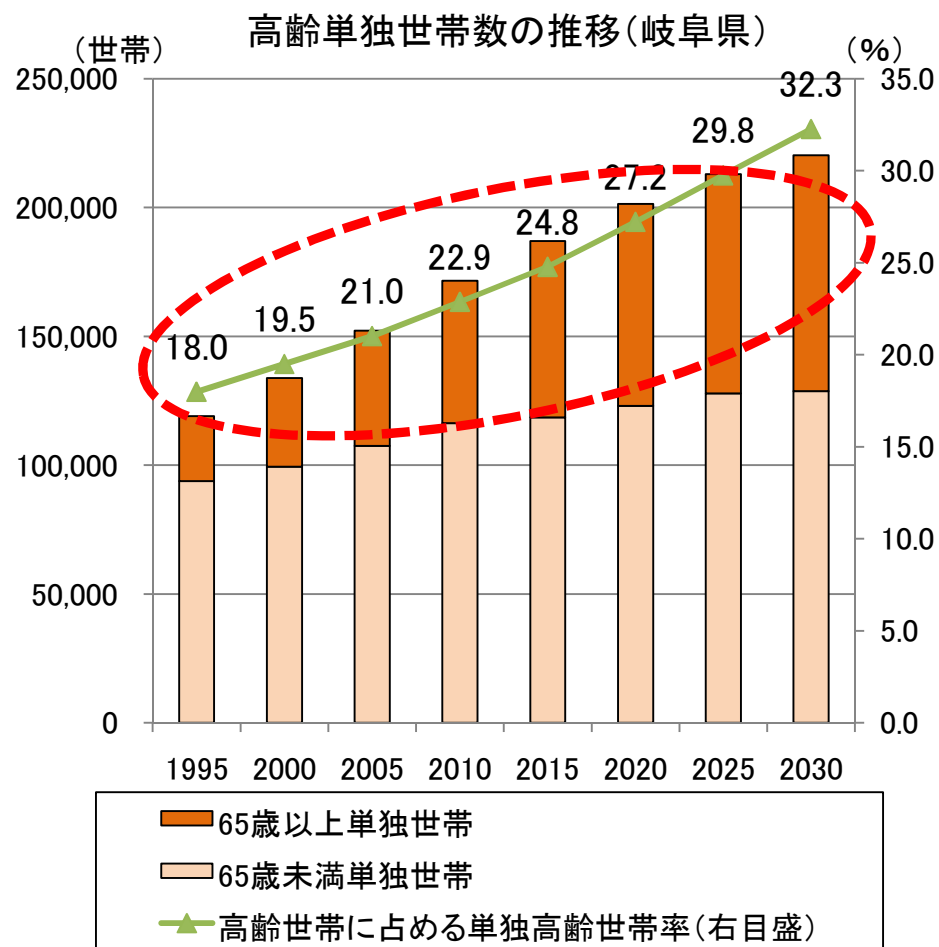
さらに世帯の小口化が進んでいることが推察される。



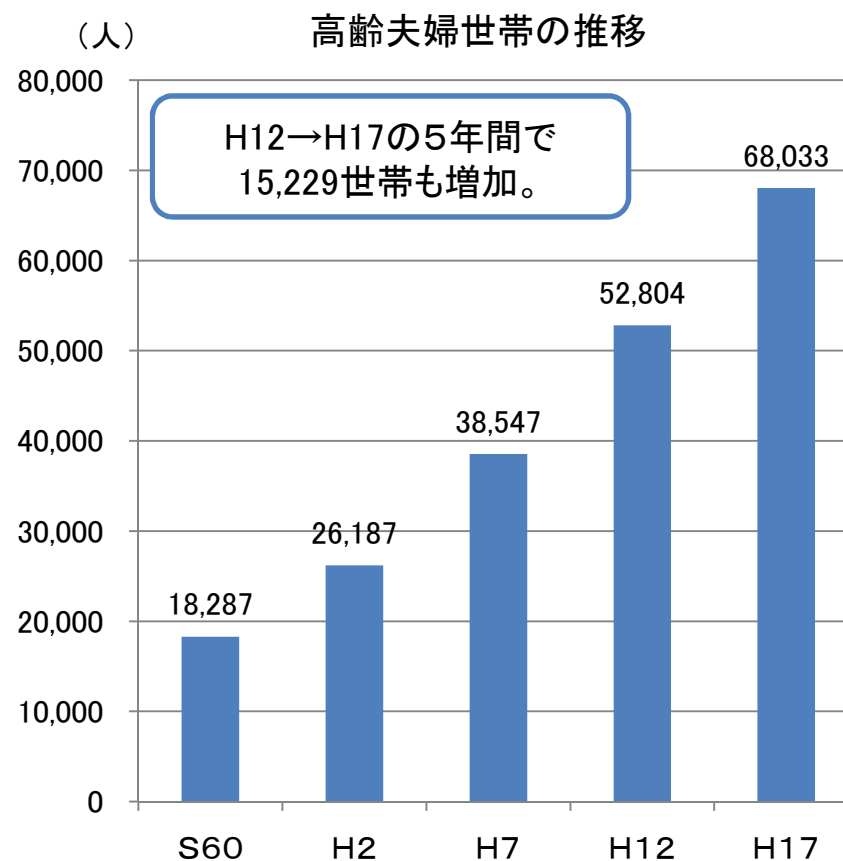
(備考) 国立社会保障・人口問題研究所公表資料により作成。

高齢単身・夫婦世帯

2030年の高齢単身世帯は、9万1千世帯（32%）に急増。
 高齢夫婦世帯も大幅に増加中。



(備考)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」により作成。

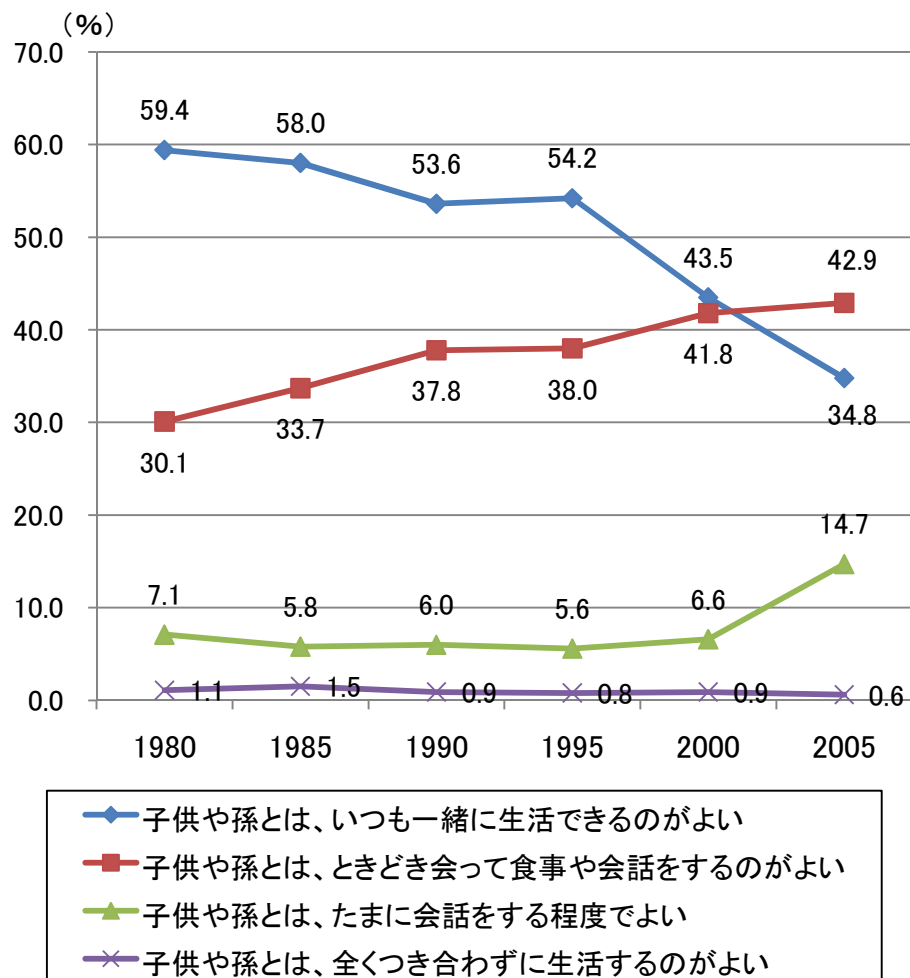


(備考)総務省「国勢調査」により作成。高齢夫婦世帯とは夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯。

家族関係・親族関係の変化

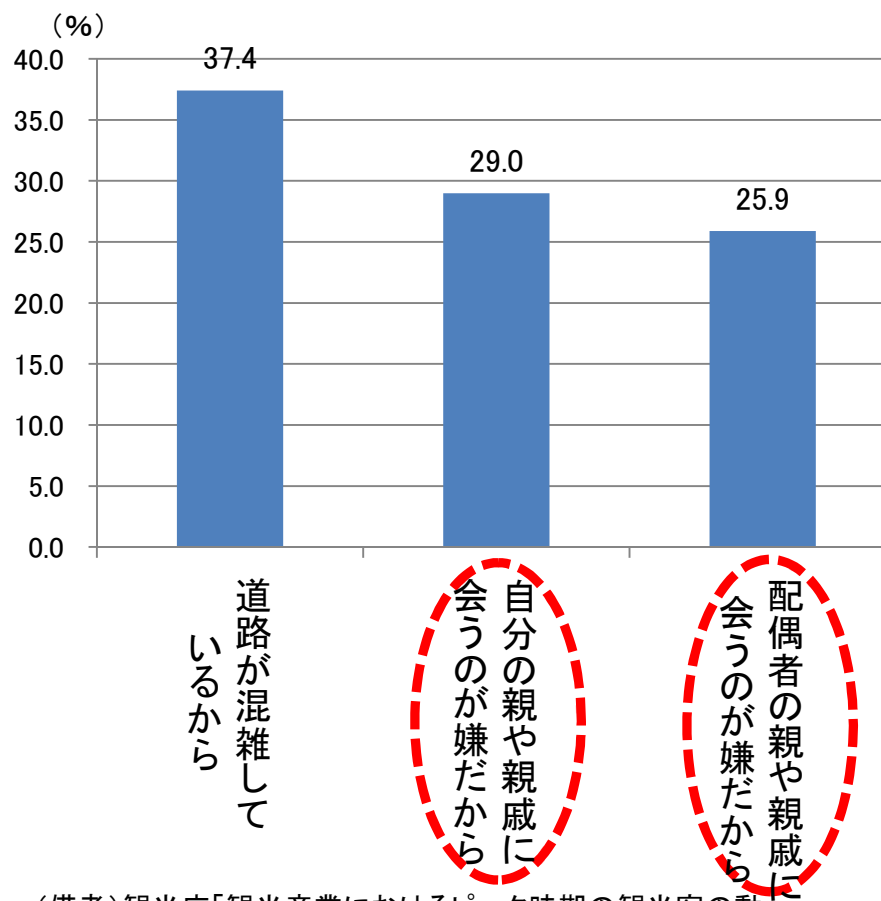
親子や孫との付き合いが、お互いにある程度の距離感を置いた付き合い方に変化している。

老後における子どもや孫とのつきあい方



(備考)内閣府「高齢者の生活と意識国際比較調査」により作成。

お盆の時期、できれば帰省したくない人やできればしたくないが帰省するよう心がけている人に聞いた帰省したくない理由

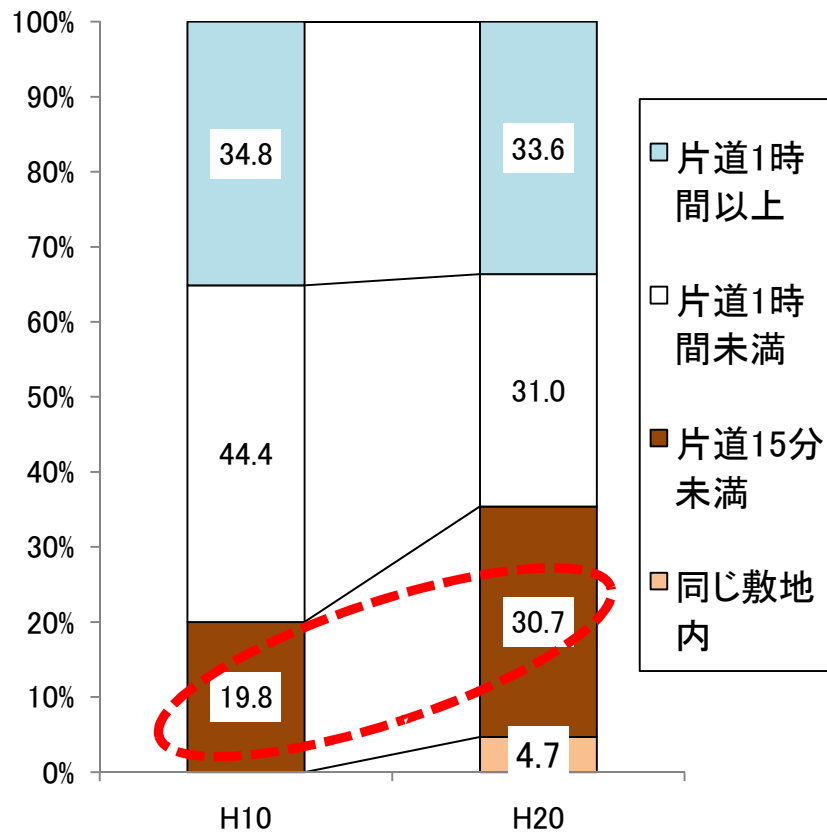


(備考)観光庁「観光産業におけるピーク時期の観光客の動向把握に関する調査」(2010年8月)

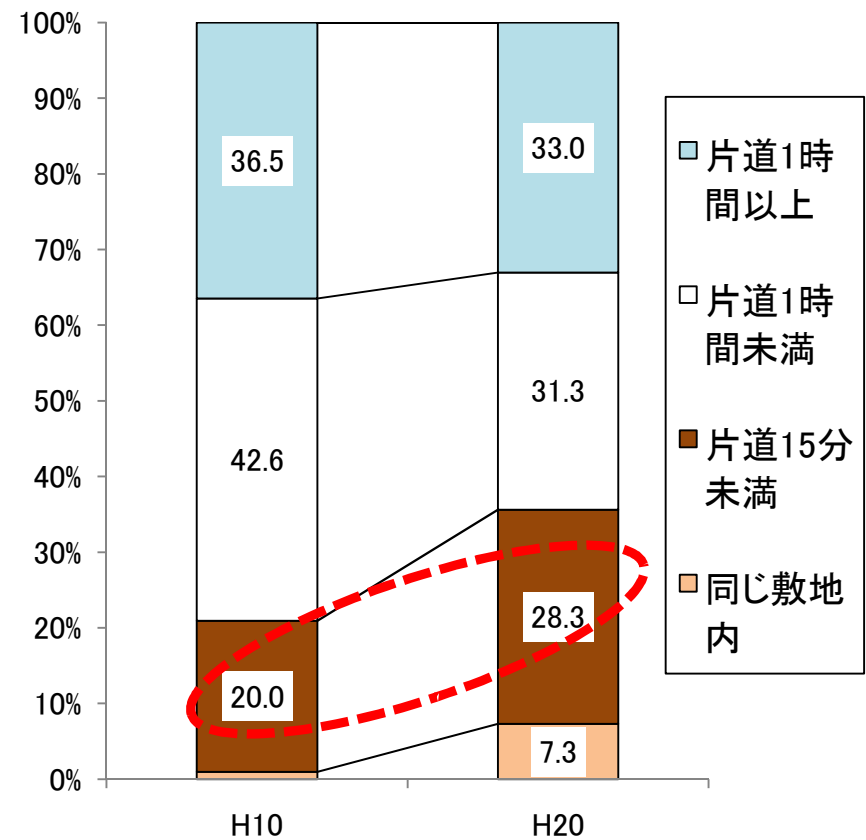
その一方で...

子どもとの近接居住が増えており、いざという時には駆け付けられる適度な距離感とプライバシーを保つ家族関係が構築されている…のかもしれない。

65歳以上単身世帯の子どもとの住まいの距離
(岐阜県)



高齢夫婦世帯の子どもとの住まいの距離
(岐阜県)

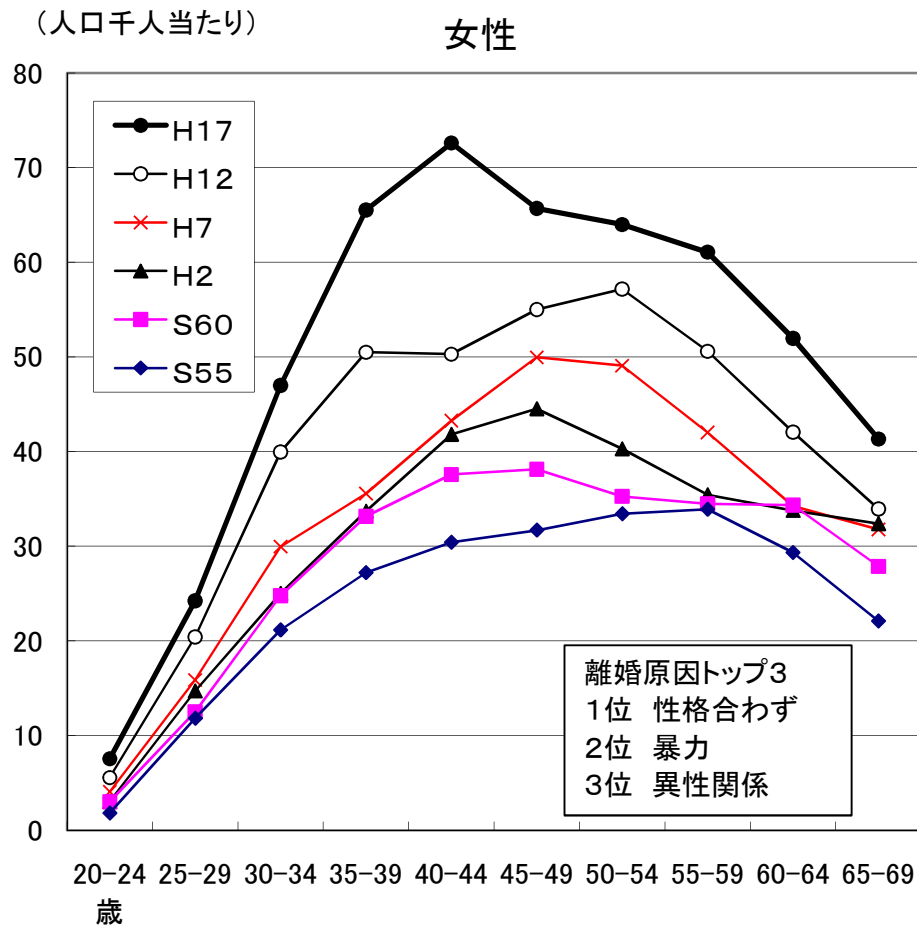


(備考)総務省「住宅・土地統計調査」により作成。片道時間とは、ふだん行き来に利用している交通手段による所要時間

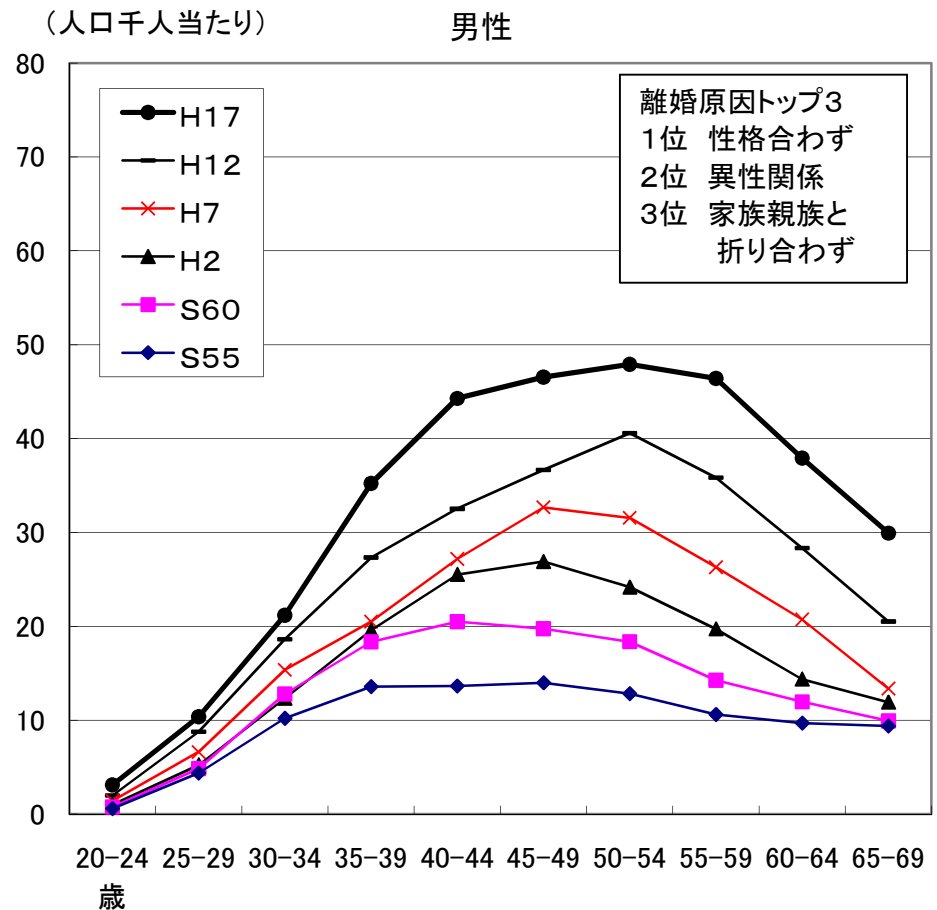
離別人口の増加

全世代で、離別人口（人口千人当たり）は上昇。

離別人口の推移



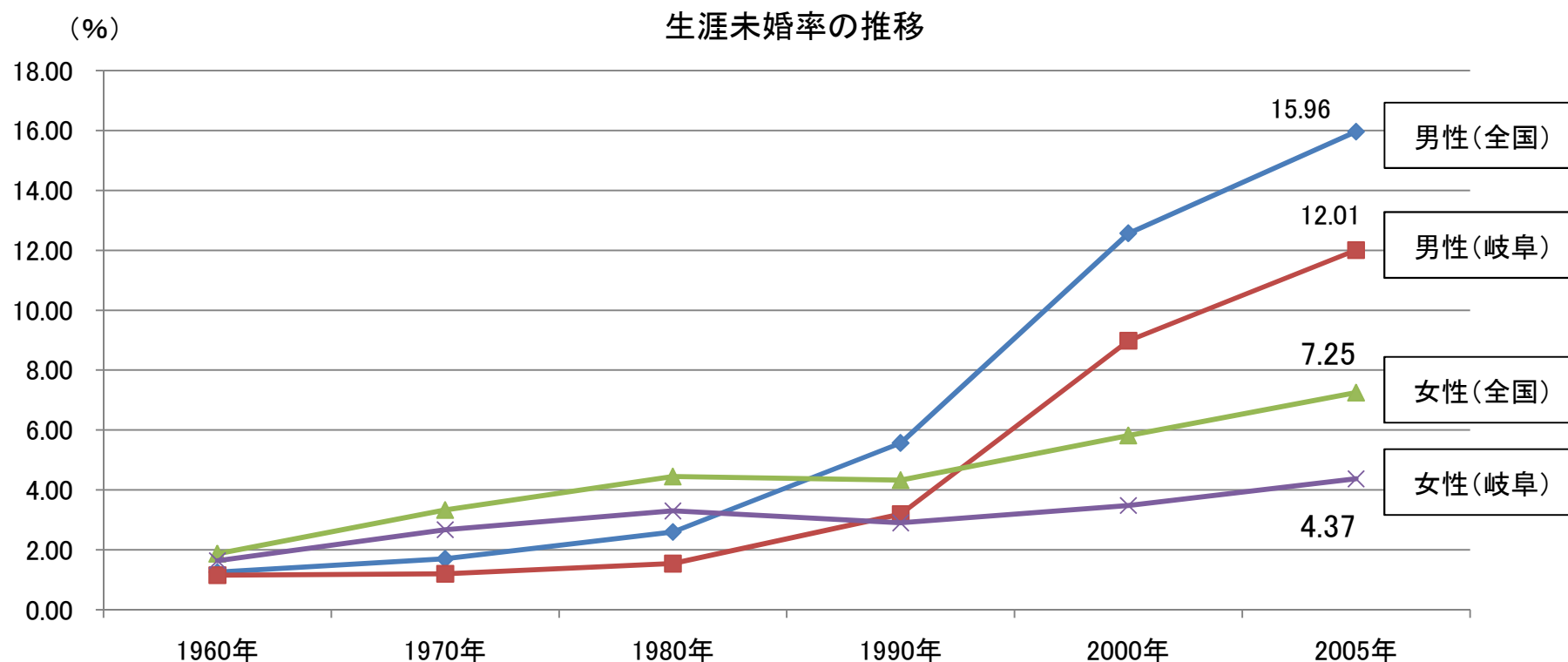
出典:総務省「国勢調査」



出典:総務省「国勢調査」

非婚者の増加

非婚者が増加している。特に男性の生涯未婚率の上昇は著しく、2005年には12%に上る。



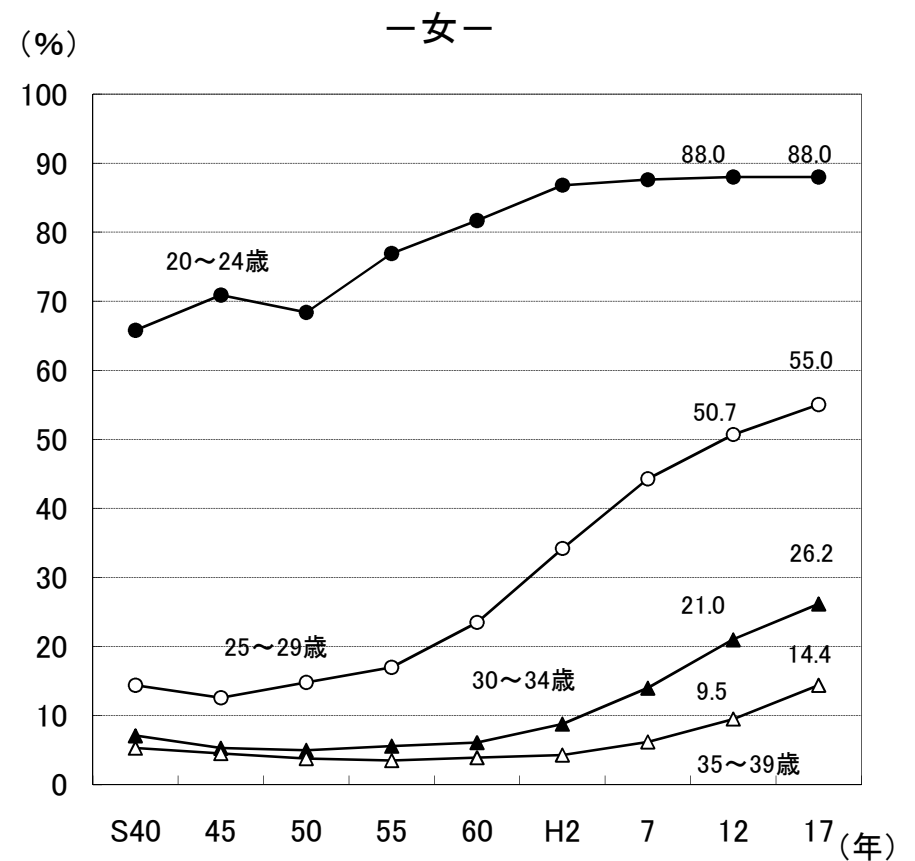
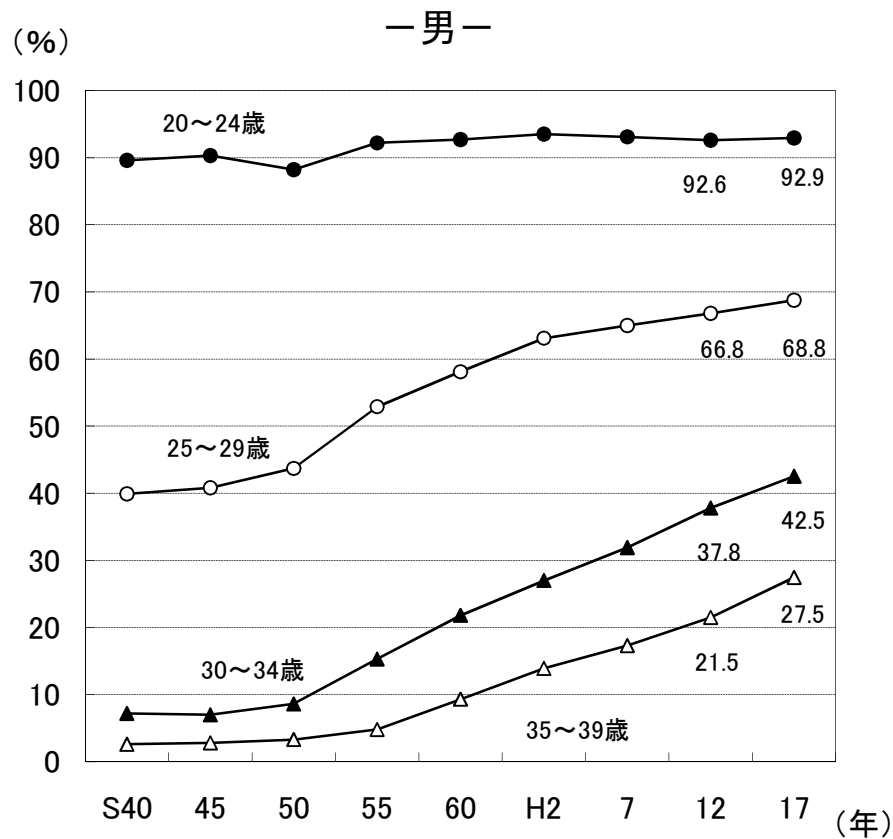
(備考)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」により作成。

生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率(配偶関係不詳を除く人口を分母とする)の平均値であり、50歳時の未婚率を示す。
全国は沖縄県を含む。

非婚者の増加

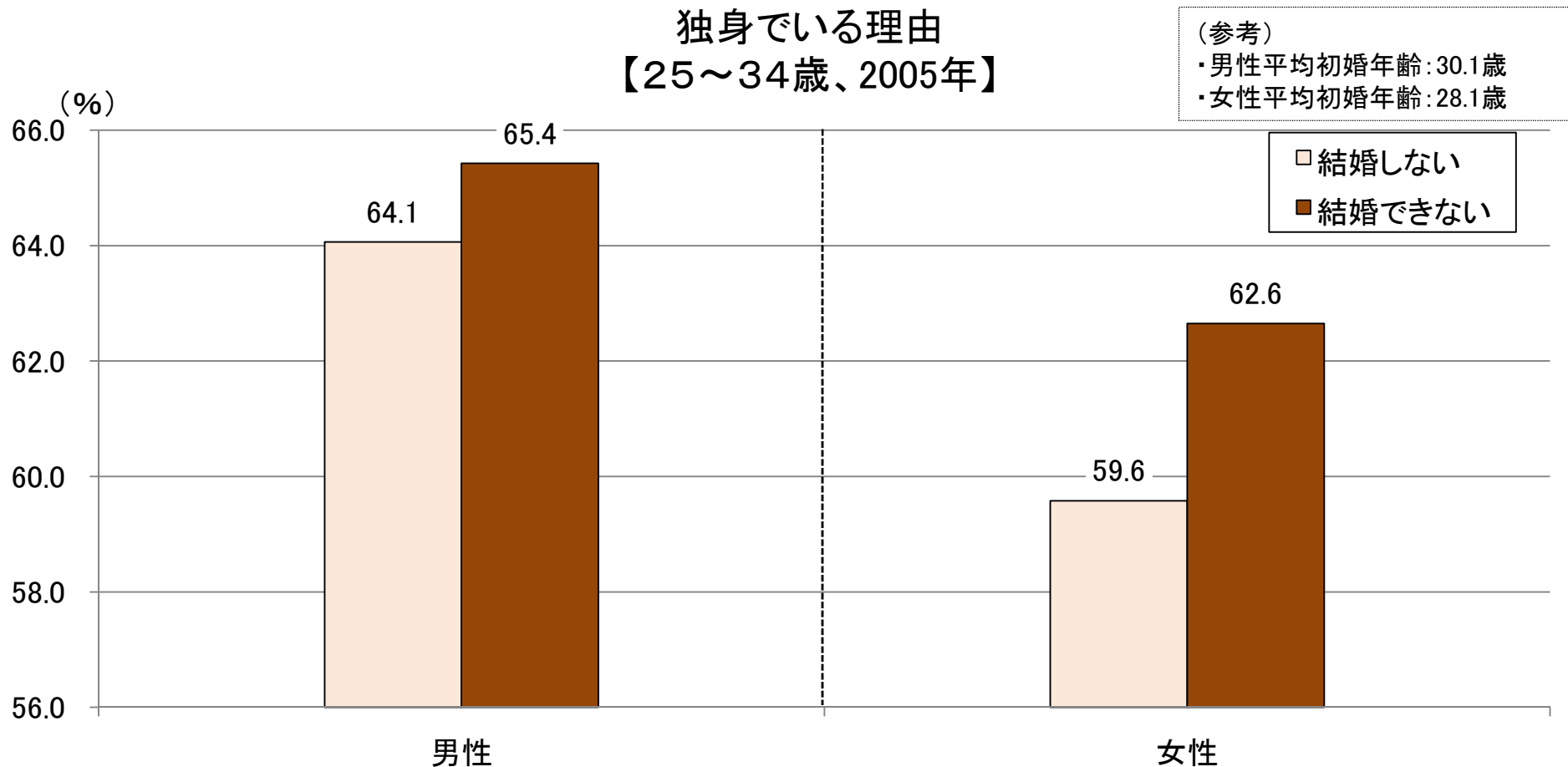
男女ともにほぼすべての世代で未婚率が上昇。

年齢別未婚率の推移(岐阜県)



結婚しないのか それとも
結婚できないのか

男女ともに、結婚しないというよりも、結婚できない人の割合の方が高い。

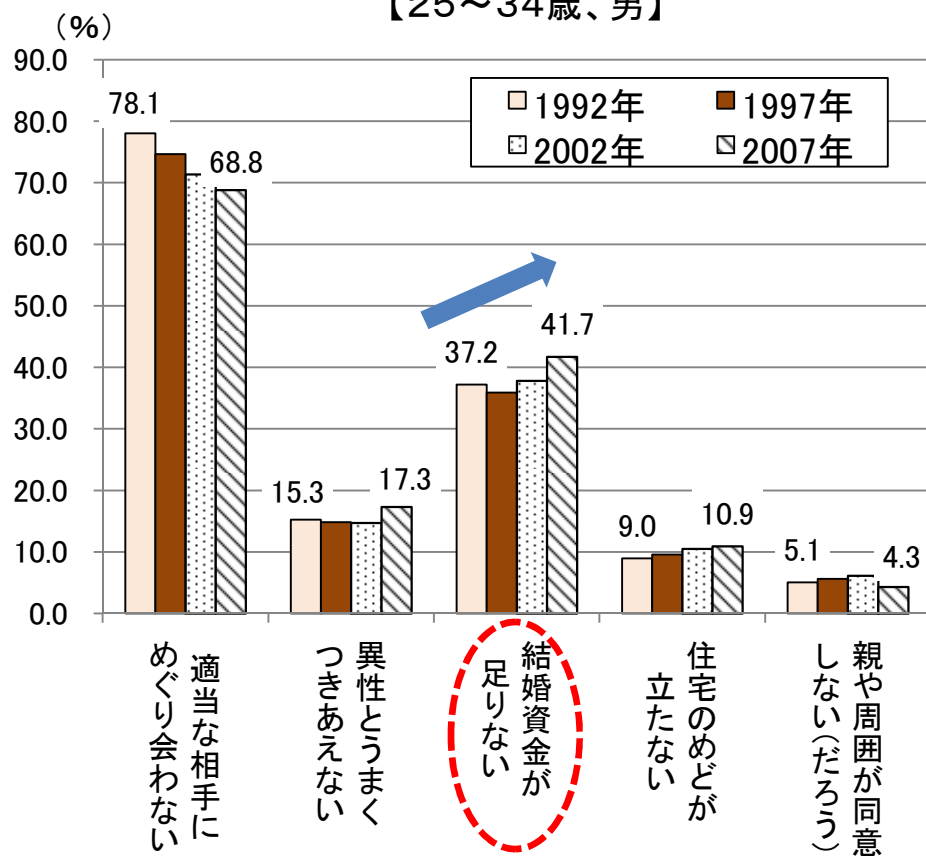


(備考) 国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査、独身者調査)」により作成。
結婚しない人の理由及び結婚できない人の理由は共に複数回答(3つまで選択)のため各年ともそれぞれの割合の合計は100%とはならない。

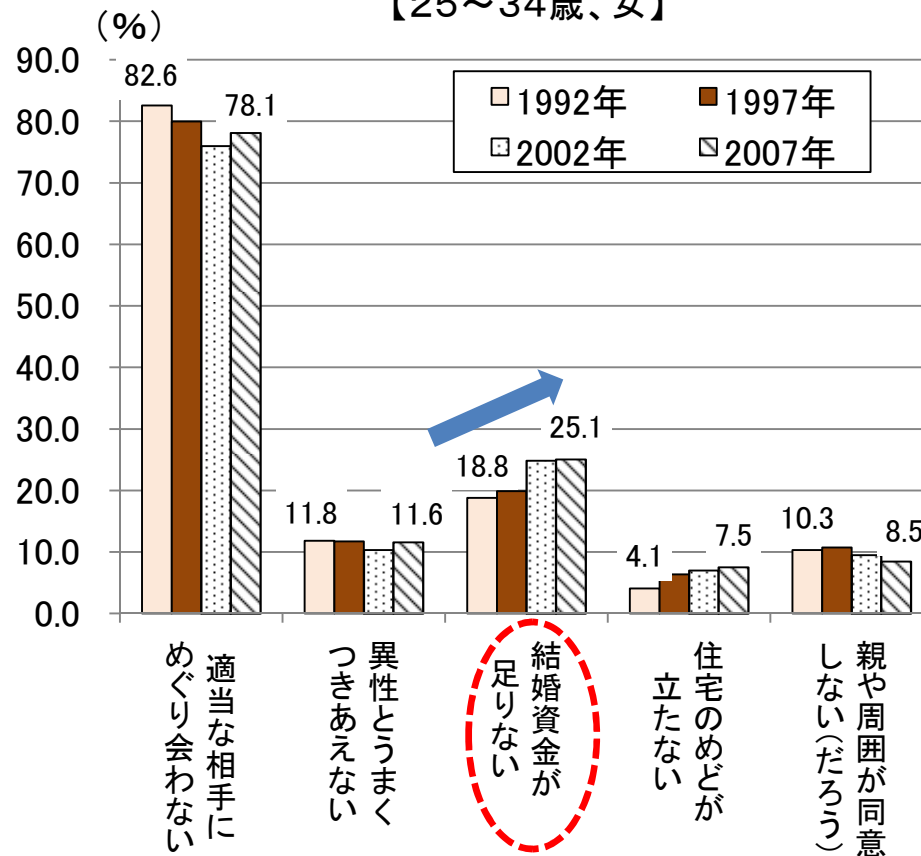
なぜ結婚できないのか

男女ともに結婚できない理由に、「結婚資金が足りない」を挙げる人の割合が上昇中。

結婚できない理由
【25～34歳、男】



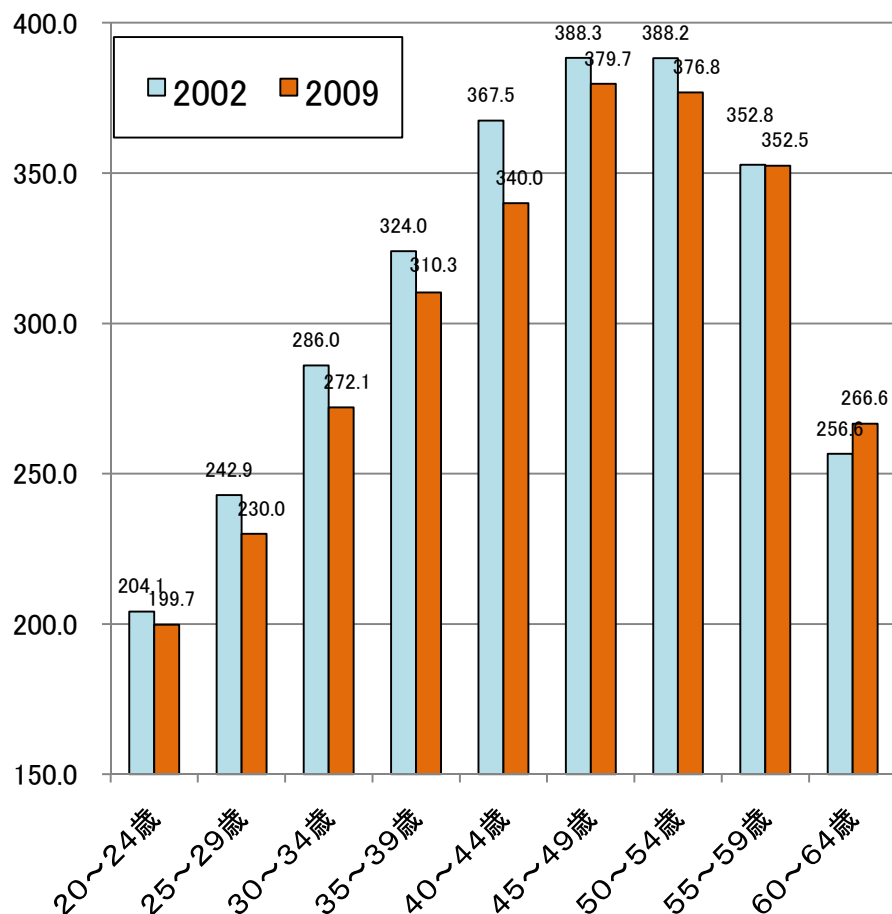
結婚できない理由
【25～34歳、女】



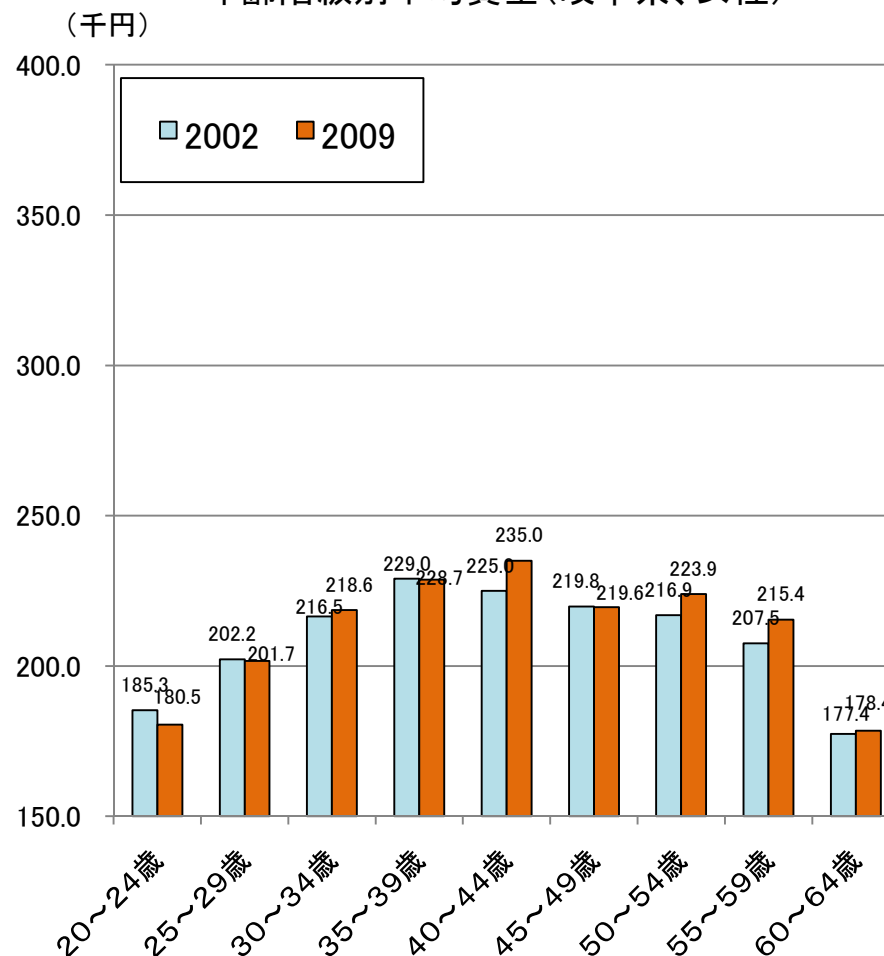
(備考) 国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査、独身者調査)」により作成。
各年ともに複数回答(3つまで選択)のため各項目の合計は100%とはならない。

2002年から2009年にかけて、ほぼすべての年齢層で男性の平均賃金が減少。女性の賃金も伸び悩んでいる。

年齢階級別平均賃金(岐阜県、男性)
(千円)



年齢階級別平均賃金(岐阜県、女性)
(千円)

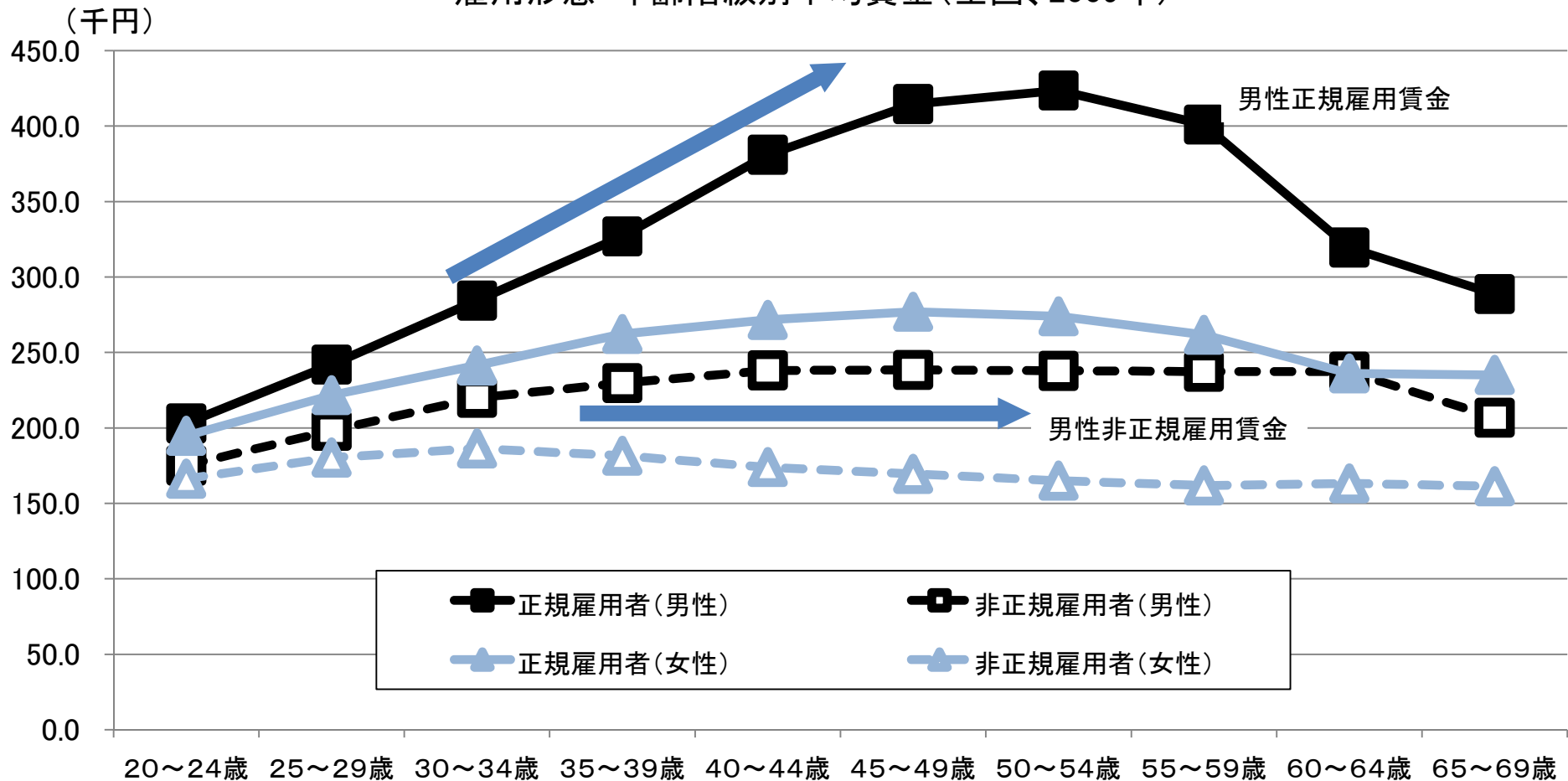


(備考)厚生労働省「賃金構造基本統計調査」により作成。賃金は時間外手当などを除く所定内給与。

雇用形態別賃金

平均賃金は、男性の正規雇用者と非正規雇用者で大きく乖離。働き盛りの30～50歳代にかけては著しい。

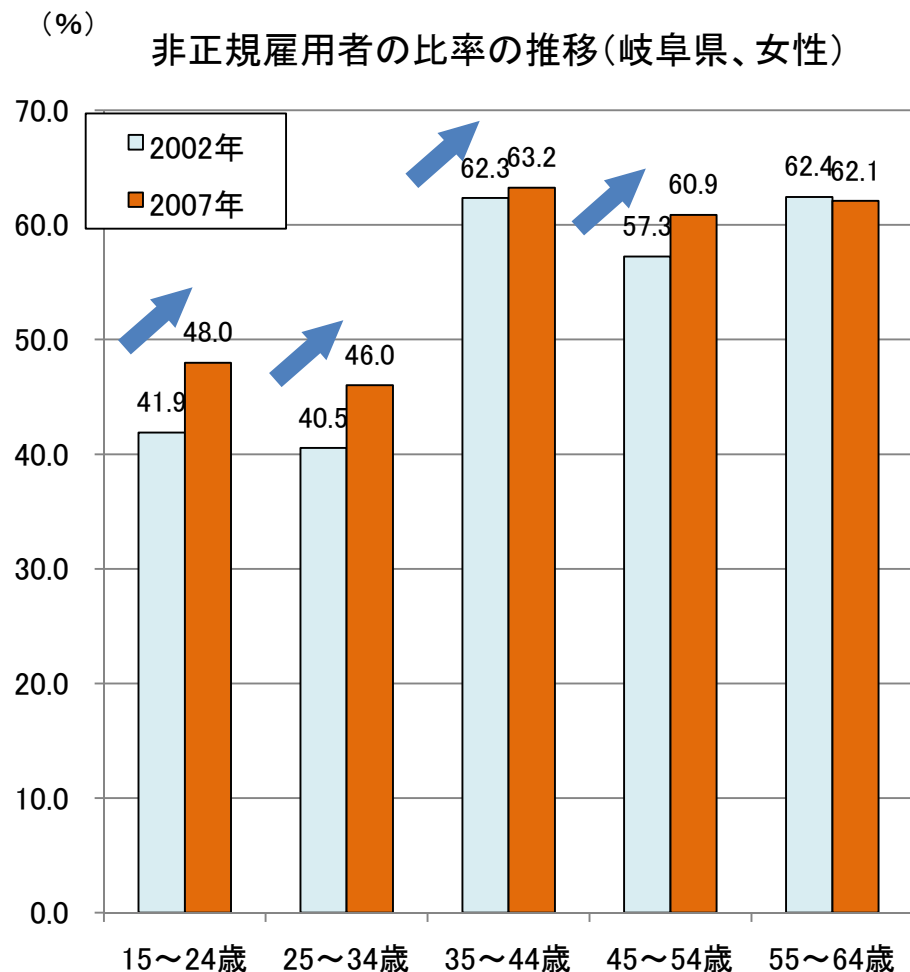
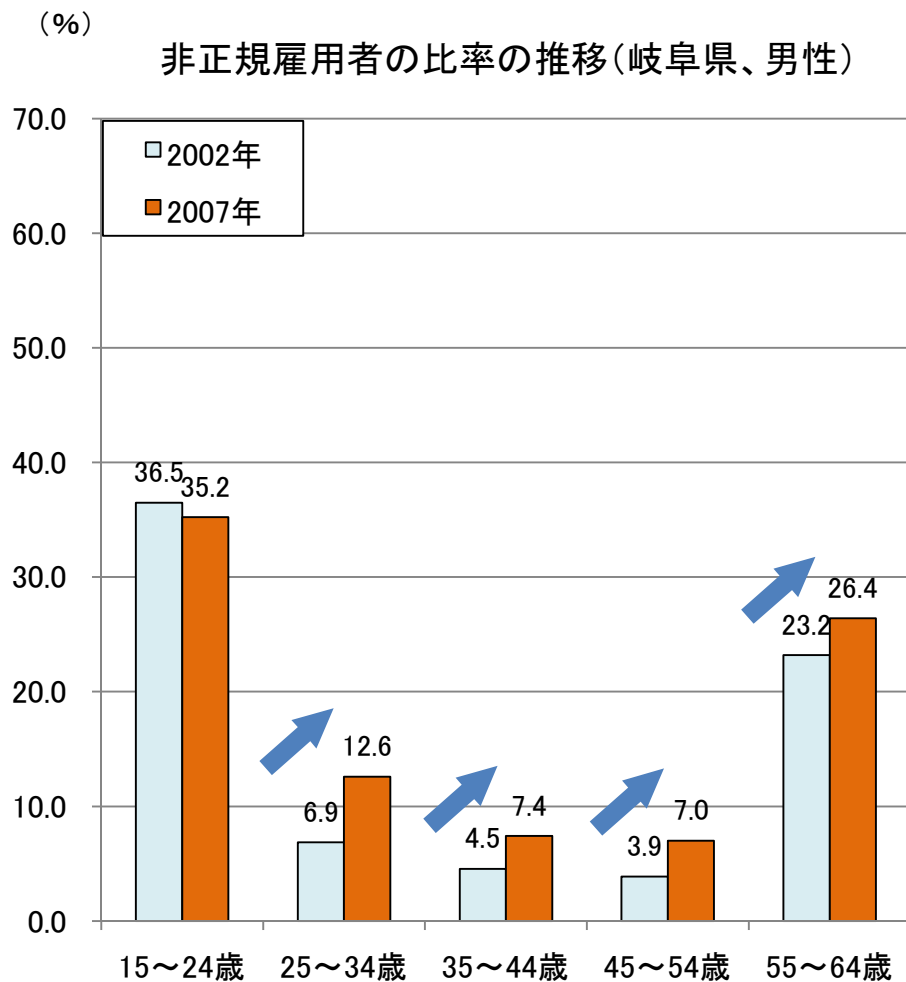
雇用形態・年齢階級別平均賃金(全国、2009年)



(備考)厚生労働省「賃金構造基本統計調査」により作成。賃金は時間外手当などを除く所定内給与。

非正規雇用者比率

ほぼ全ての年齢層で非正規雇用者の比率が上昇。

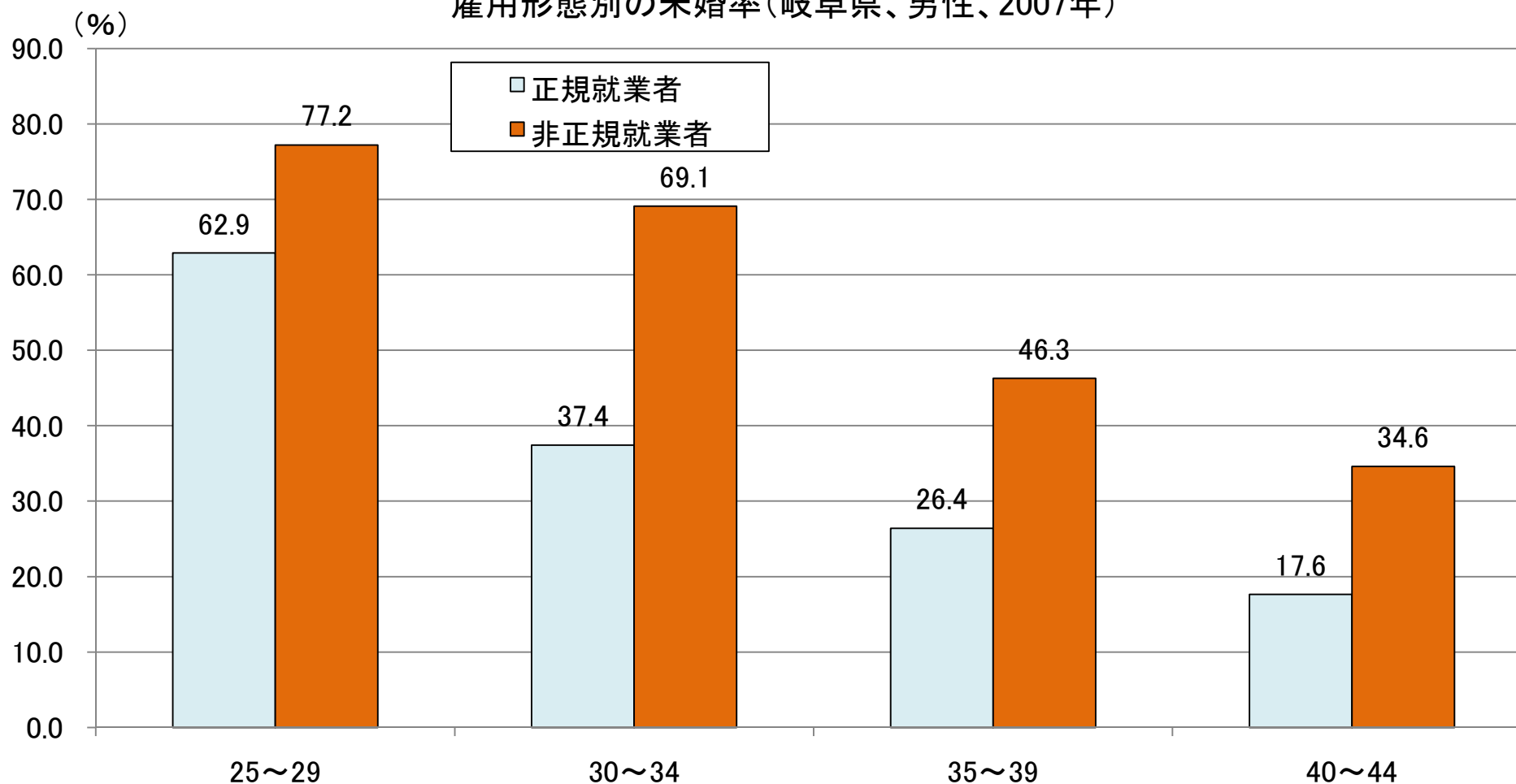


(備考)総務省「就業構造基本調査」により作成。

雇用形態別未婚率

正規雇用者と非正規雇用者とで未婚率の乖離は明らか。
未婚率の上昇は、経済基盤の脆弱化も影響している可能性。

雇用形態別の未婚率(岐阜県、男性、2007年)

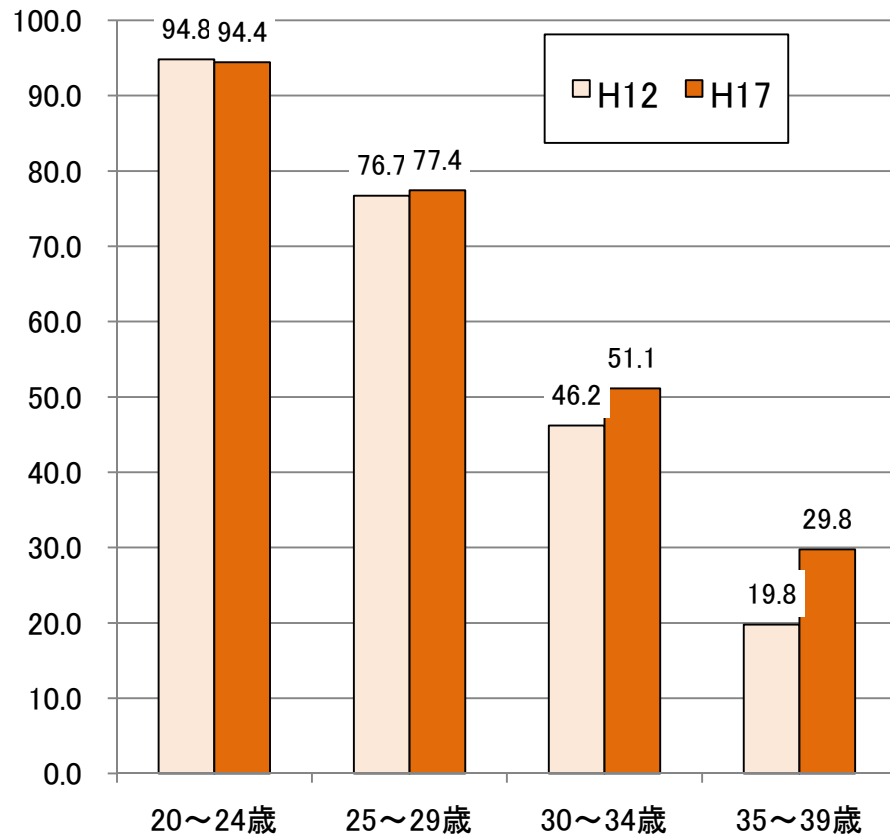


(備考)総務省「就業構造基本調査」により作成。

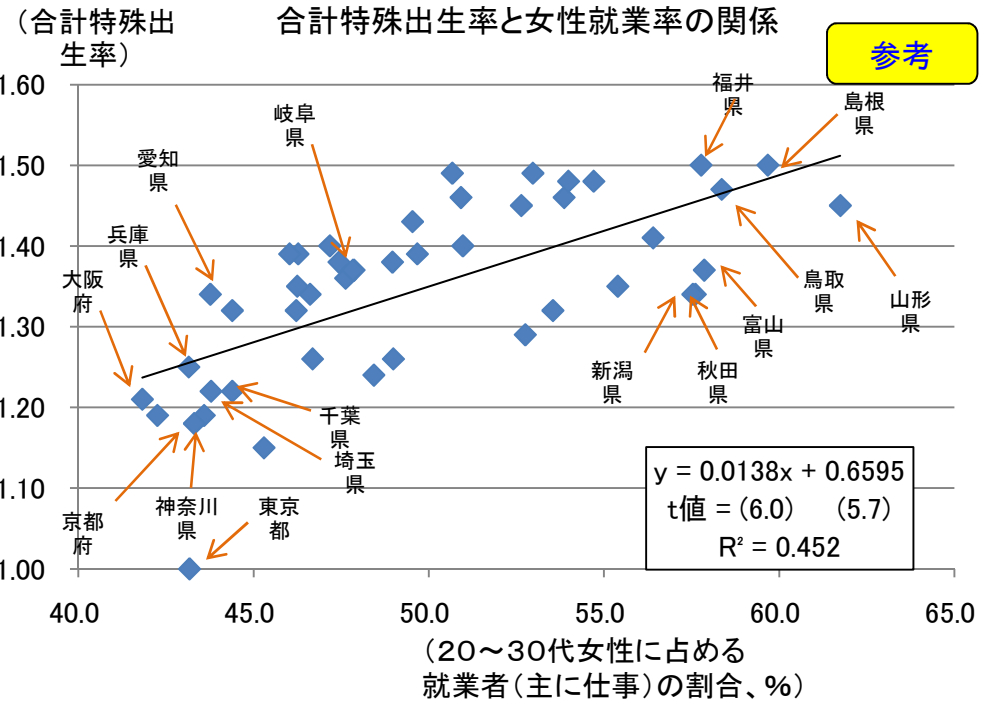
働く女性の結婚事情

25～39歳の年齢層において、主に仕事をしている女性就業者のうち、未婚者の占める割合は増加している。

主に仕事をしている女性就業者のうち、未婚者の割合



(備考)総務省「国勢調査」により作成。



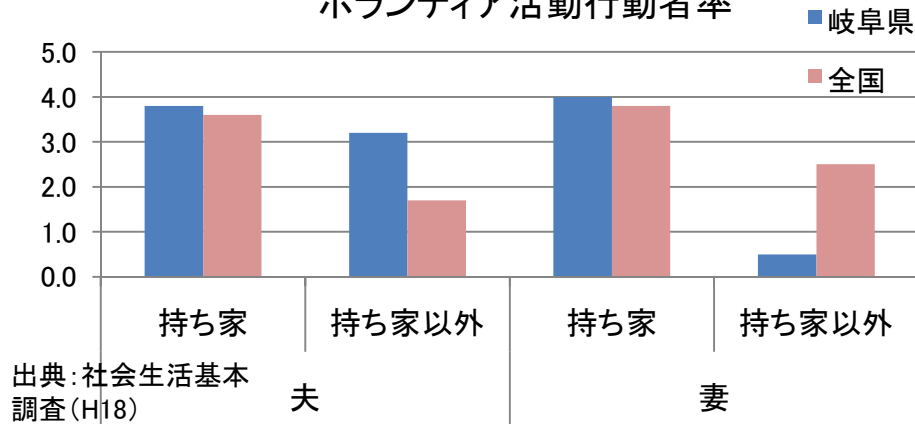
(備考)総務省「国勢調査」(2005年)、厚生労働省「人口動態統計」(2005年)により作成。沖縄県を除く。

※藻谷浩介「デフレの正体－経済は『人口の波』で動く」より

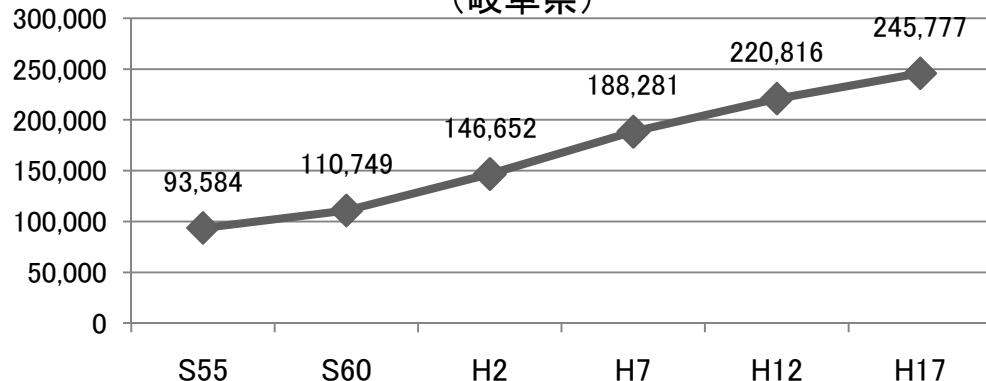
4 居住形態の変化

社会参加頻度の少ない借家（特に共同住宅）に居住する人が増えている。

住居の種類別、夫妻別のボランティア活動行動者率

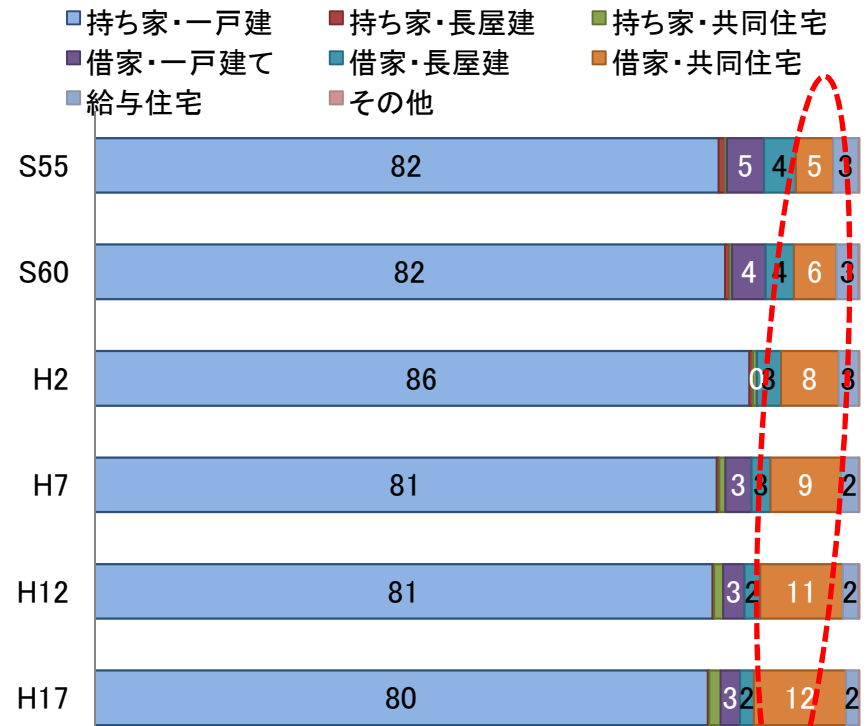


世帯人員数(人) 借家・共同住宅に居住する人の推移 (岐阜県)



出典: 国勢調査。借家とは公営の借家、都市機構・公社の借家、民営の借家の合計。S55は普通世帯人員、S60以降は一般世帯人員による。

所有関係別住宅の建て方の推移(一般世帯人員)



備考: 総務省「国勢調査」より作成

※借家とは、公営の借家、都市機構・公社の借家、民営の借家を合計したもの

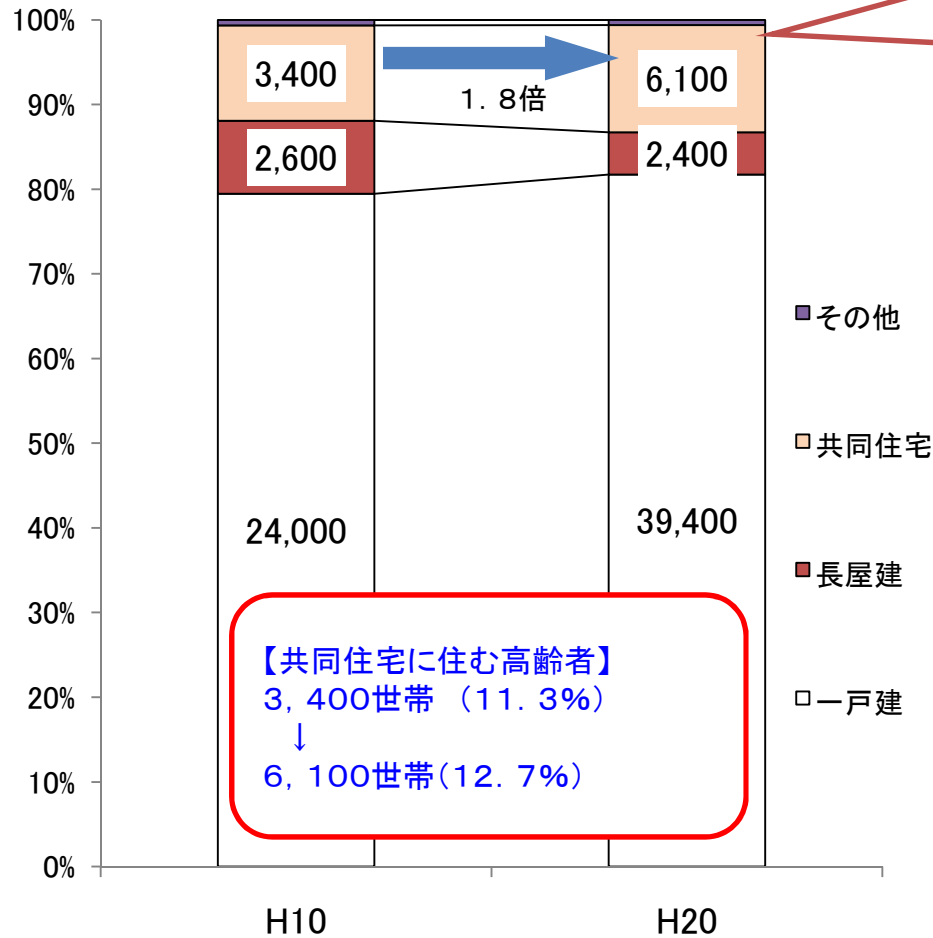
※その他とは、持ち家、借家、給与住宅において住宅の建て方が一戸建、長屋建、共同住宅のどれもあてはまらないもの

※S60~H17は一般世帯人員、S55は普通世帯人員をあらわす

高齢者の居住形態

共同住宅に居住する単身高齢者はここ10年で1.8倍。うちエレベーター設置等高齢者に優しい住宅は2,200世帯（36%）。

65歳以上高齢単身世帯の居住形態(岐阜県)



65歳以上単身主世帯数が住む共同住宅の内訳(戸)

種類	世帯数	割合
総数	6,100	-
うち、エレベーターありの共同住宅	1,500	24.6%
うち、高齢者対応型共同住宅	700	11.5%

高齢者が外出するにあたって
『交通機関、環境整備』で不便に思うこと、気になること

項目	割合 (%)
トイレが少ない、汚い	27.4
バスのステップが高く、乗り降りがしにくい	25.8
駅に階段が多く、エスカレーター、エレベーターが少ない	25.2
駐車場、駐輪場が少ない	21.5

(備考)内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する調査結果」
(平成6年)により作成。全国の60歳以上の男女2,908人対象。
有効回収数(率)は2,292人(78.8%)



(備考)総務省「住宅・土地統計調査」により作成。

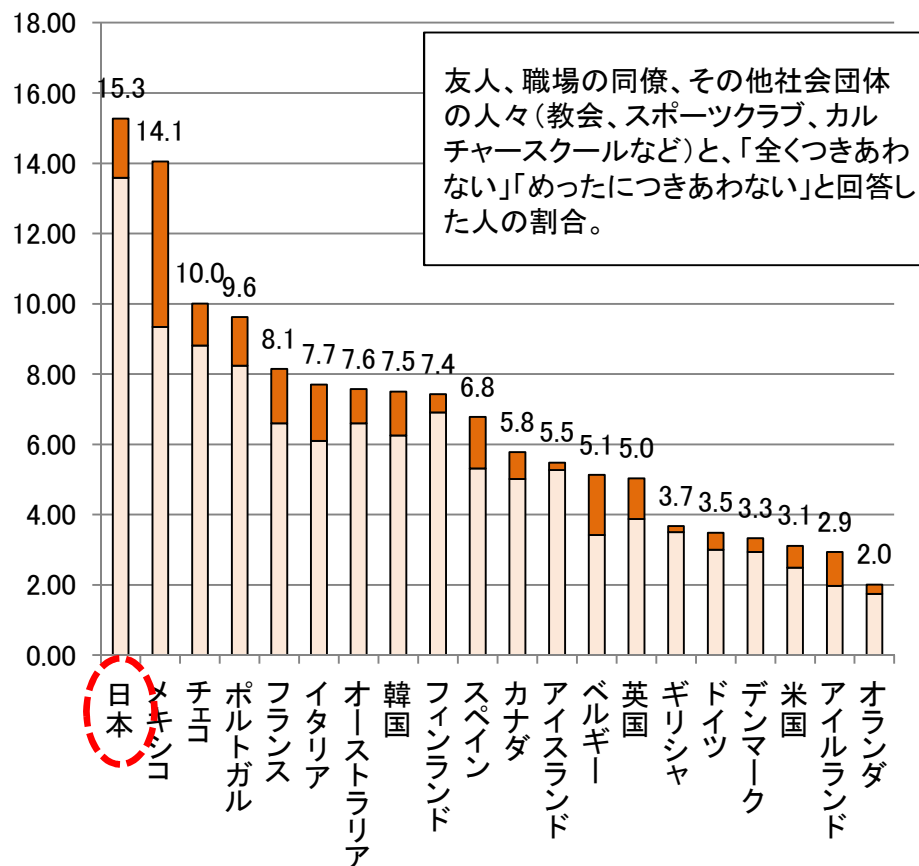
高齢者等が外出しやすいまちづくり

5 人との関わり方の変化

人づきあい

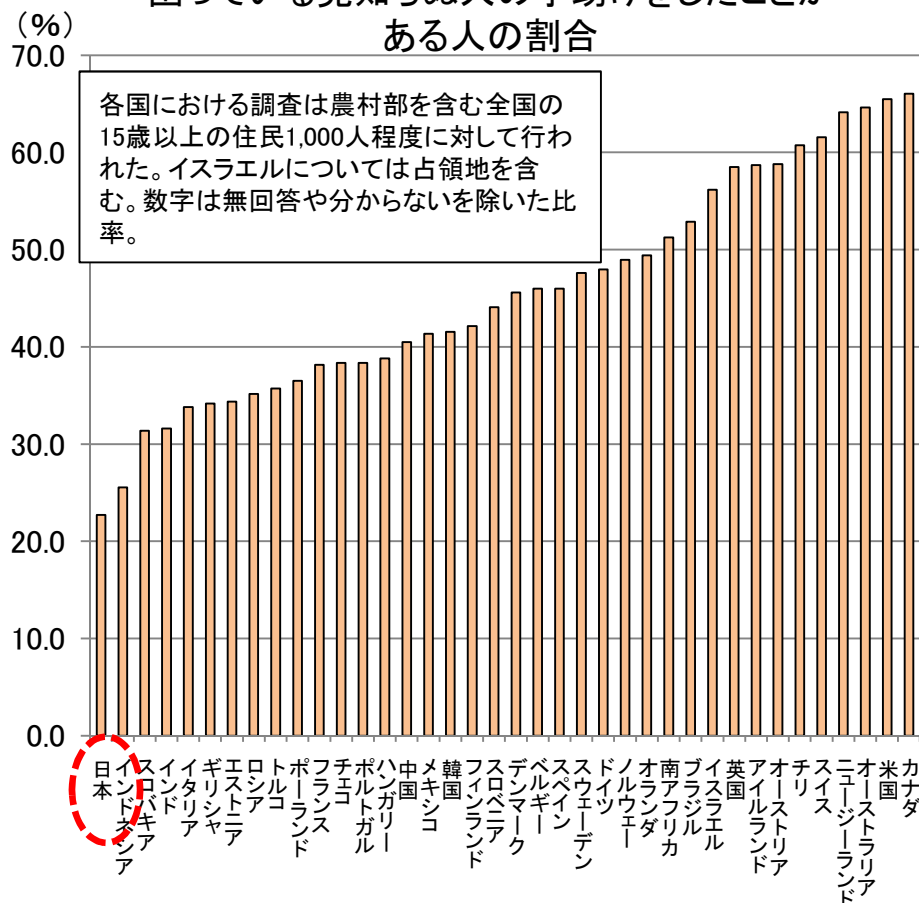
日本人は、OECD各国と比べ、社会の中での人づきあいが最も希薄。

(%) 「家族以外の人」との交流がない人の割合



(備考) OECD, Society at Glance: 2005 editionにより作成。

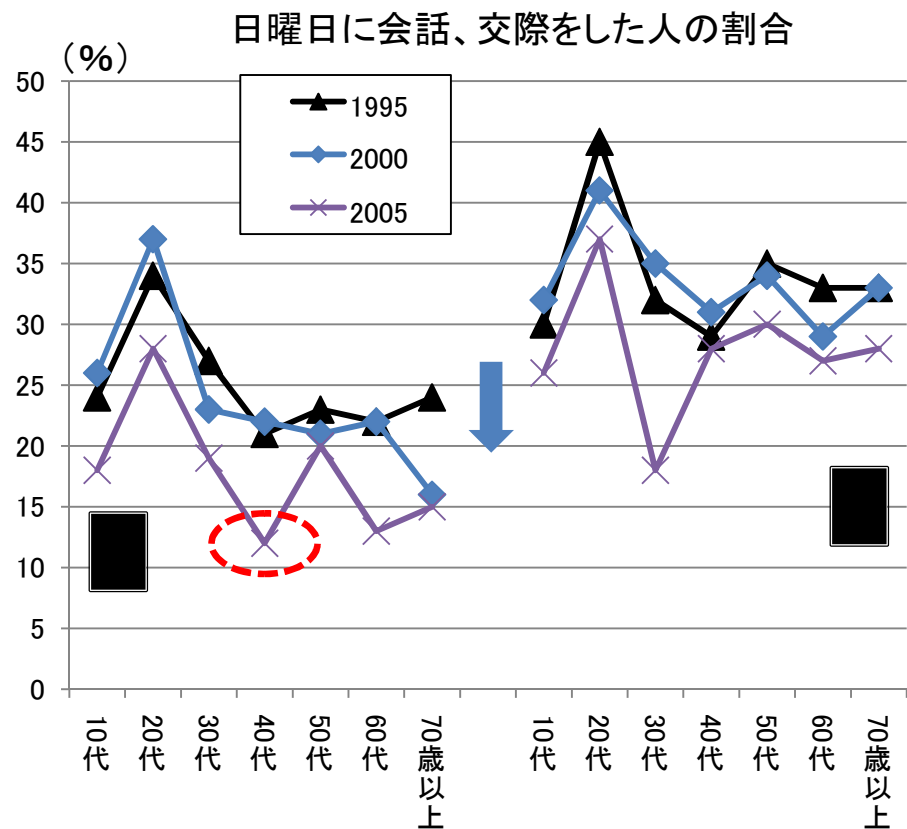
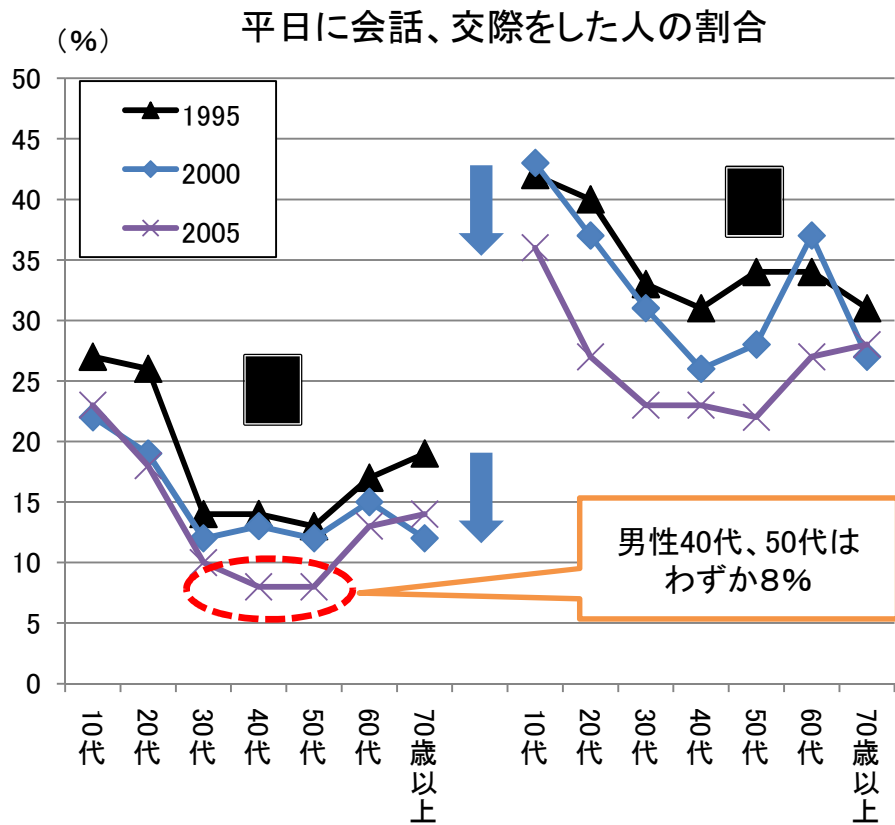
困っている見知らぬ人の手助けをしたことがある人の割合



(備考) OECD Factbook2009により作成。(調査期間:2006~2008年)

会話、交際が減る日本人

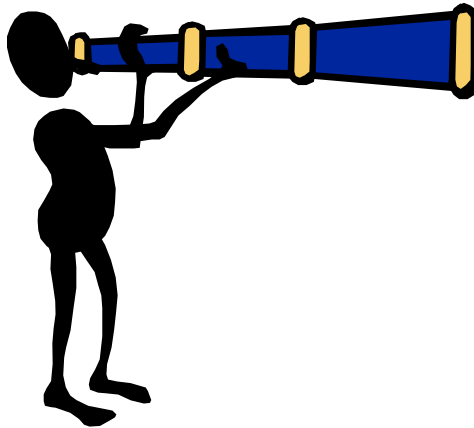
平日の男性40～50代のうち、会話・交際をした人はわずか8%。男性40代は、日曜日であるにも関わらず平日と同じ8%。



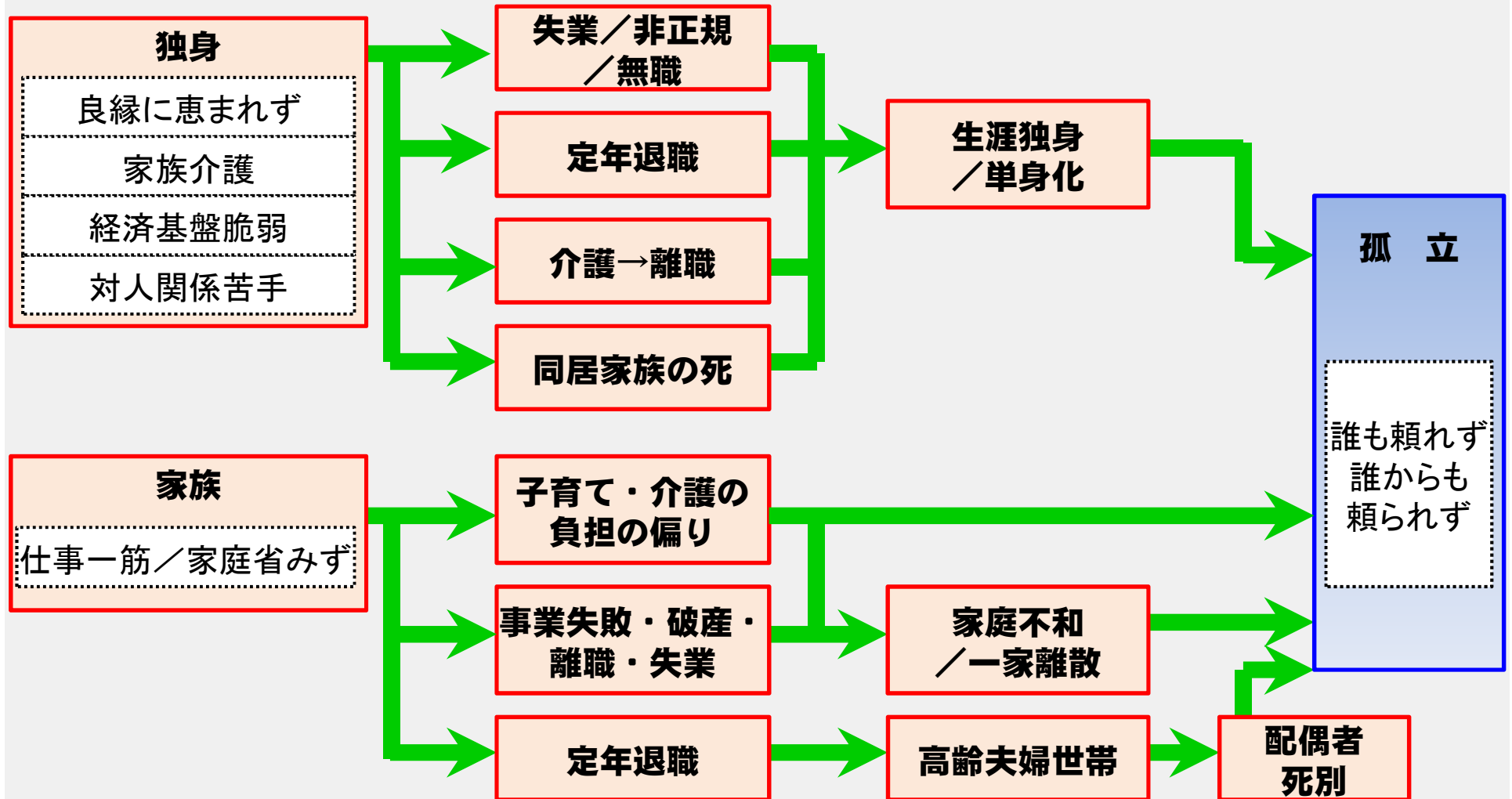
(備考)NHK放送文化研究所「国民生活時間調査」による。全国10歳以上の国民12,600人を対象に、層化無作為2段抽出法で実施。
 「会話・交際」には、次のような行動が含まれ、これらが単独で行われた場合のみ、集計の対象としている。したがって、食事をしながらのおしゃべり、スポーツや趣味のことをしながらの交際、テレビを見ながらの電話などは、この「会話・交際」には含まれていない。

- 家族・友人・知人・親戚とのつきあい
- 家族・友人・知人・親戚とのおしゃべり
- 親戚・実家・友人・知人宅の訪問
- 仕事以外で手紙を読む・書く、電話で話す、電子メールを読む・書く

総括



孤立（孤独死）に至るケースを大まかに系統化



その他バックグラウンド

生涯通じて親密な人間関係構築できず

親兄弟と離別・死別・疎遠

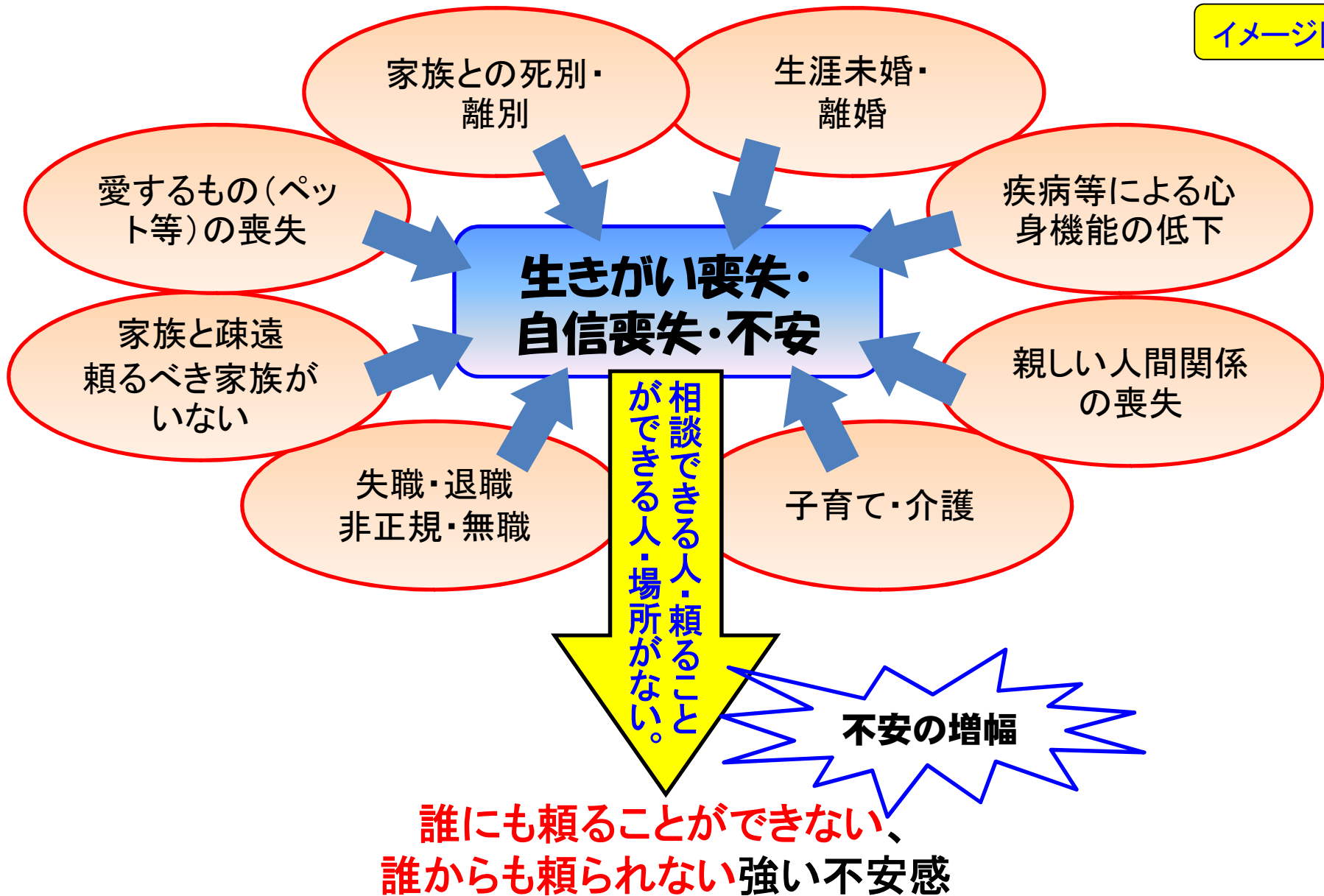
家族を含め、近くに話せる人がいない

等々

孤立化した人たちの誰もが、
「誰にも頼れない」という不安を抱えていた。

心の内に抱えていた不安

- ① 心身の健康状態が低下したとき、世話や介護を誰に頼んだらよいのか。
- ② 収入をどのように得て、生きていくための費用をどうやり繰りしていったらよいのか。
- ③ いざ困ったことが起きた時に、助けてくれる人との関係をどのように作っていったらよいのか。
- ④ 家族からも仕事からも自分を必要とされなくなった今、何を生きがいにして生きていったらよいのか。
- ⑤ これらの不安を誰に相談したらよいのか。



→ 孤立

孤独死は孤立状態の結果行き着くひとつの結果に過ぎない。誰しもひとりで生活する時間は長短は別にしてあり、孤独死自体を防ぐことはできず、孤独死をした人＝かわいそう、不幸では必ずしもない。

つまり、孤立とは

- ◆失業、退職、非正規雇用、未婚、親密な人間関係の喪失、家族との死別、疾病による心身機能の低下等、様々な要素が複合的に絡み合うと、
- ◆人は生きがいや自信を喪失し、不安を抱く。
- ◆その不安について、相談する相手や場所がない人、あるいは誰からも頼られることのなくなった人は、強い不安感の増幅と共に、生きる意欲、自己存在意義を見失い、あるいは自分を追い詰め、孤立状態に陥る。

孤立を防ぐために取り組むべきこと

ヒアリングを行った方々からのアドバイス

○NHK板垣 淑子 氏、野林 亮 氏

- ・人はつながりの中でしか生きていくことができない。

どんな些細な言葉でもいい。

「おはよう」「ありがとう」のちょっとした言葉が、人が生きる上での救いとなる。

- ・必要なことは、制度や法の充実もそうだが、ゆるくて、じんわり広がるつながり。

○常盤平団地自治会長 中沢 卓実 氏

- ・ひとりひとりが、「その人がよいと思う方法」で、社会とのつながりを持つことが重要。

それは家族や親族である必要はなく、もう少し緩やかな関係であってもいい。

○「NPO法人きずなの会」岐阜事務所長 住 昇 氏

- ・「家族以外にも頼ることができる人はいつでも身近にいるんだ」

「もっと頼ってもいいんだ」

という安心感を持つことができるような環境を整えていくことが必要。

孤立を防ぐために取り組むべきこと

◆ 一人一人が“つながりを持つ”と意識し、努力すること

- 孤立しないためには、周りのことを気にかけて、自ら動き出すことが大切。
- たった一言の挨拶を交わすだけでも誰かが気にかけてくれている意識を持つことができれば、人は孤立感から救われることがある。

◆ 多様なつながりを育むこと

- 自分の居場所や役割、そして喜び、安心感を見出せる場所を見出すことが大切。
- 地縁、血縁、社縁を補い、包摂する多様なつながり(形・場に捉われない、趣味やネット、育児仲間等を通じたつながり、公益団体や地縁組織等の地域貢献活動など)を育むことで、孤立から解放されることがある。

(事例) ひとり暮らしで生活保護、誰とも会話することなく、孤立生活をしていた男性が外出した際、学童から挨拶をしてもらったことが嬉しくて、自宅で育てた「かぶと虫」を小学生にプレゼントしたところから小学生との交流が始まり、生きていることを実感。人生の再スタートを決意した。

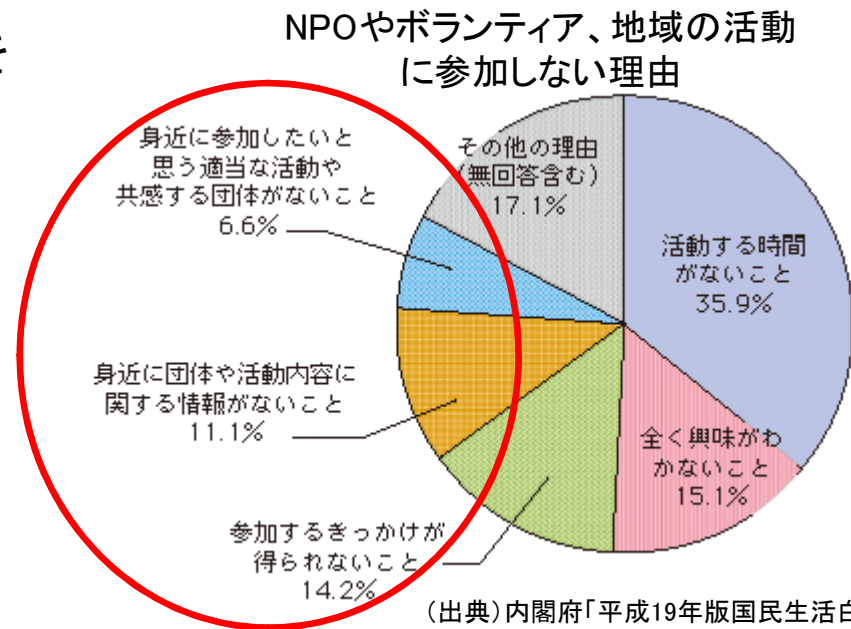


それでも自らつながろうとしない人には何を言っても無駄ではないのか？

◆ きっかけ次第で本人のつながる意欲を引き出すことも！

- 地域活動やNPO、ボランティアに関する情報を各種媒体で提供していくことは当然必要
- 加えて、そうしたつながりを育む場所、空間に参加しやすい雰囲気醸成することが大切。

特に男性には、関わりを持つきっかけを掴めない人も多いが、組織の中で何らかの役割を持たせてあげると、うまく溶け込んでいく。
(板垣氏 談を抜粋し要約)



◆ それでも動けない人には周りから“飛び込む勇気”を！

- うまくつながれない人には、身近にいる人々が“勇気”を持って関わっていくことも時には必要。

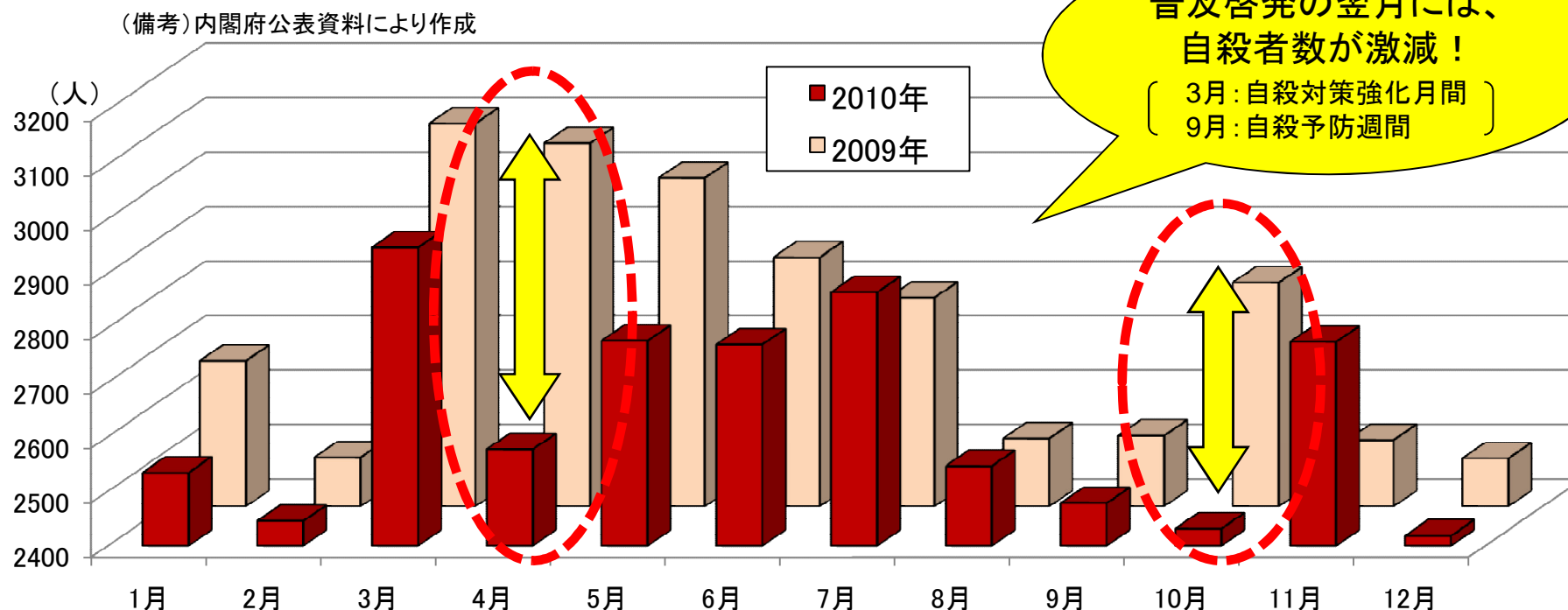
個人情報の保護・プライバシーを理由に、その人への見守り活動をためらうのはおかしい。行政には難しくとも、地域住民が熱意を持ってやれば乗り越えられる。
(板垣氏、中沢氏 談を抜粋し要約)



つながいを育む場所や空間に参加しやすい社会
誰もがつながいを育むことに意欲的な社会にするには
どうしたら…？

◆ 地道な意識啓発が必要！

2009年と比較した2010年の月間自殺者数



◆ つながりを生む取組への支援や充実、実態調査が必要！

- 困った時、助けが必要な時の公的な相談窓口の存在を知らない人が多い。
そうした人への周知は必要。
- それでも行政ができることは限られる。その点で行政に期待するのは、
孤立に悩む人々と活動団体等との間の橋渡し役。
- そして、孤独死を定義し、正確なデータがなければ、対策を立てることもできない。
そのため国に、孤独死の定義と調査の実施を要望している。

(板垣氏、中沢氏 談を抜粋し要約)

提案

「『みんなでつながろう』キャンペーン」として 各種施策を展開 ~ゆるくてじんわり広がるつながりを~



たとえば

○学童通学の見守りなどを通じたつながり及び地域活動参加機会の創出

- ・地域の商店街や、地域貢献に意欲を持つ高齢者、企業、事業所で働くサラリーマンの参加促進

EX) ・学童の登校時刻に合わせて開店、出勤
・散歩が日課の高齢者は学童の登下校時間に合わせて散歩
・主婦は学童の下校時間・ルートに合わせて買い物 等

地域のみんなが
同じ目的のために
力を合わせる
時間と空間の創出！

※安全・安心まちづくり県民運動参加団体などとも連携

○支え合い活動、見守り活動等地域貢献に取り組む団体の情報発信

- ・地域のNPO団体、社会福祉協議会、地域での支え合いによる制度外サービス実施団体等の活動情報の各種媒体・機会をとらえた発信

地域活動に関する
情報を発信！

○地域イベントと活動団体のコラボレーション

- ・乳幼児検診時における、子育てサークル等による同伴兄弟の預かり
- ・住民健診時における、シルバー人材センターや地域サークル等の活動PR

子どもを通じた親の
つながりを創出！

高齢者のつながり
を育む場に関する
情報を提供

○人と人をつなぐ担い手の育成・活動支援

- ・民生委員のほか、人と接する機会が多い人（個人商店、喫茶店、理美容店）等を対象に、声の掛け方から接し方、悩みや相談ごとの聞き方、助言の仕方等に関する研修を実施

悩みや相談ごとを親身になって聞き、
安心感を与えることのできる
能力・技術を持った人材を育成

○地域の拠点の活用

- ・高齢者関連施設：
シルバー人材センターや高齢者福祉施設を、小・中学生等の教育、高齢者との交流の場として活用。地域の高齢者と子ども（やその親）が交流を深める場としていく。
- ・児童関連施設：
幼・保育園(所)の園庭開放を促進
→地域の子育てママ・パパらが自然に集まり、交流を深める場としていく。
→老人ホームや小中学校との交流、高校生・大学生の保育ボランティアの受入れ

定期的に(頻繁に)同じような境遇の人が
集まるような空間・機会の創出！

○県内の孤立状況調査の実施

- ・年齢別、性別、世帯類型別、就業状況別、地域別等に孤立を感じる人々の実態調査

県内の「孤立」の実態を調査し、
政策の礎に！

県内外の優良事例を調査し、
政策の礎に！

○県内外の優良事例の調査と普及

- ・県内外における、つながりを育むための先進的な取り組み、新しいつながりの形を調査

○各種公的支援制度、相談窓口の周知徹底と充実

○既存の施策や事業の継続実施・充実

- ・就労支援の充実(経済基盤の強化)
- ・ワーク・ライフ・バランスの取組推進(育児・介護、仕事の両立)
- ・NPOや各種住民団体によるつながりの場づくり・活動への支援
- ・地域を愛し、人とつながる力を持った人材(地域社会人)の育成(教育)
- ・高齢者や障がい者、子育て家族等、様々な面で弱者となりやすい人たちが
外出や買い物、交流しやすいまちづくり、環境づくり 等

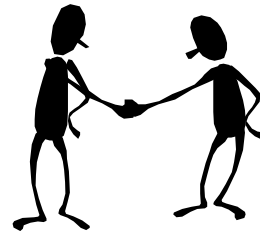
最後に（メッセージ）

- ・普段連絡を取っていない家族はいないだろうか。電話してみてもうだろうか。
- ・最近見かけないご近所さんはいないだろうか。一度顔をのぞいてみるだろうか。
- ・疎遠になってしまっている友人はいないだろうか。一度連絡を取ってみてもうだろうか。
- ・いつも顔はみるのに素通りしてしまっているだろうか。勇気を持って挨拶をしてみてもうだろうか。
- ・普段は疎遠な自治会活動、話の種に一度、参加してみてもうだろうか。
- ・普段は妻(夫)にまかせっきりの家事、ゴミだし、PTA、子どもの送り迎え。たまには、できるところからその役割を担ってみてもうだろうか。



ほんのささやかであっても、こうした具体的な活動が、人と人とを結びつけ、「無縁」あるいは「孤立」と言われる社会を乗り越える足掛かりになるかもしれない。
何気ないその一言、掛け声が、人を救うことになるかもしれない。

ご静聴、ありがとうございました。



付 録

1 つながりを育むことの社会的効果

ソーシャル・キャピタル

「ソーシャル・キャピタル」とは、「社会的な繋がり(ネットワーク)とそこから生まれる規範・信頼」であり、共通の目的に向けて効果的に協調行動へと導く社会組織の特徴とされる。(内閣府)

ソーシャル・キャピタルの定量化(内閣府)

ソーシャルキャピタル指数の構成要素における個別指標

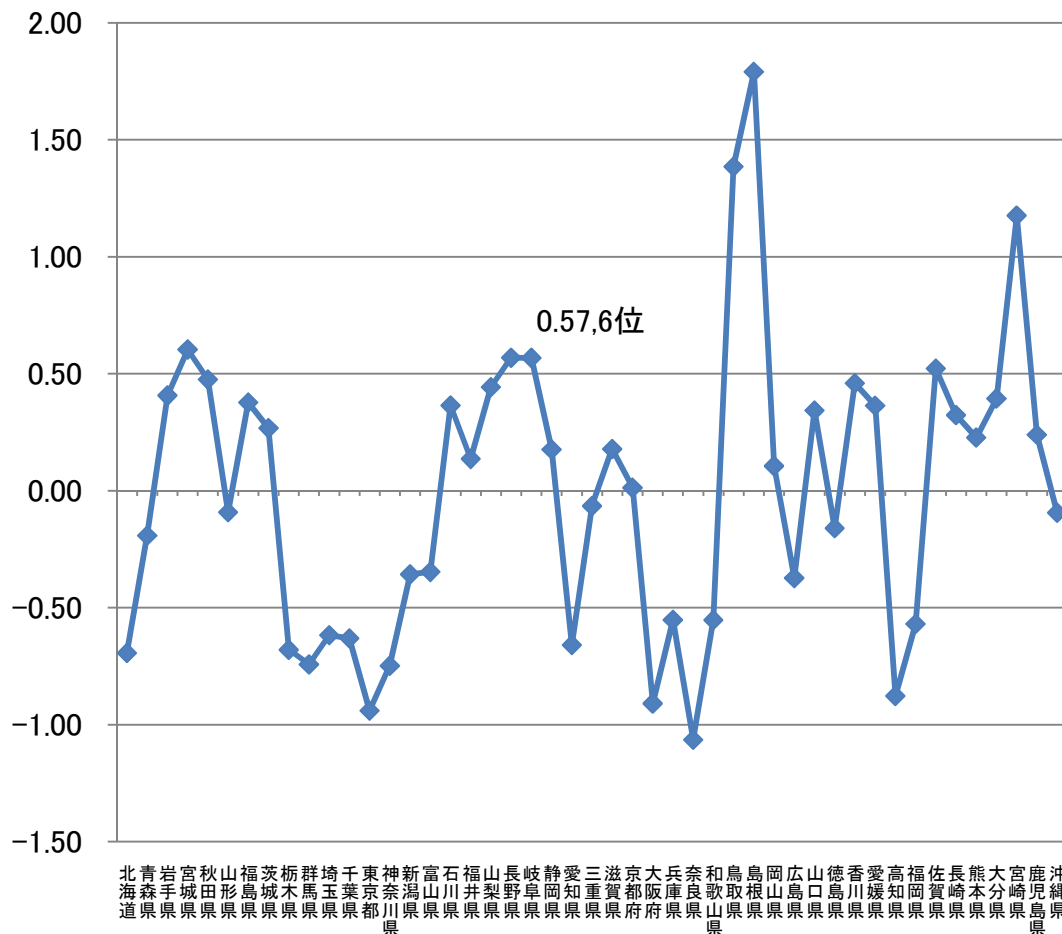
	構成要素	サブ指標	採用指標	
1	つきあい・交流	近隣でのつきあい	(i)隣近所とのつきあいの程度 (ii)隣近所とつきあっている人の数	それぞれの回答率を基に指数化 → 各指数単純平均値を算出 → 「つきあい・交流指数」の算出
		社会的な交流	(iii)友人・知人とのつきあいの頻度 (iv)親戚とのつきあいの頻度 (v)スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	
2	信頼	一般的な信頼	(vi)一般的な人への信頼	それぞれの回答率を基に指数化 → 各指数単純平均値を算出 → 「信頼指数」の算出
		相互信頼・相互扶助	(vii)近所の人々への信頼度 (viii)友人・知人への信頼度 (ix)親戚への信頼度	
3	社会参加	社会活動への参加	(x)地縁的な活動への参加状況 (xi)ボランティア活動行動者率 (xii)人口一人当たり共同募金額	それぞれの回答率を基に指数化 → 各指数単純平均値を算出 → 「社会参加指数」の算出



統合指数(1~3の個別指数の単純平均値)

本県のソーシャル・キャピタルは、0.57で全国6位。
 ソーシャル・キャピタルが失業率の抑制や犯罪率の低下、余命の長さに
 寄与している可能性がうかがわれる。

都道府県別のソーシャルキャピタル指数(総合指数)



県民生活に係わる各種標と、
 ソーシャルキャピタルとの相関関係

	総合指数	つきあい・ 交流指数	信頼指数	社会参加 指数
完全失業率 (2009年)	○ (やや 相関)	○ (やや 相関)		○ (やや 相関)
刑法犯 認知件数 (人口千人 当り2009年)	○ (やや 相関)	○ (やや 相関)		○ (やや 相関)
65歳以上 女性の 平均余命 (2005年)	○ (弱い 相関)	○ (弱い 相関)	○ (弱い 相関)	○ (弱い 相関)

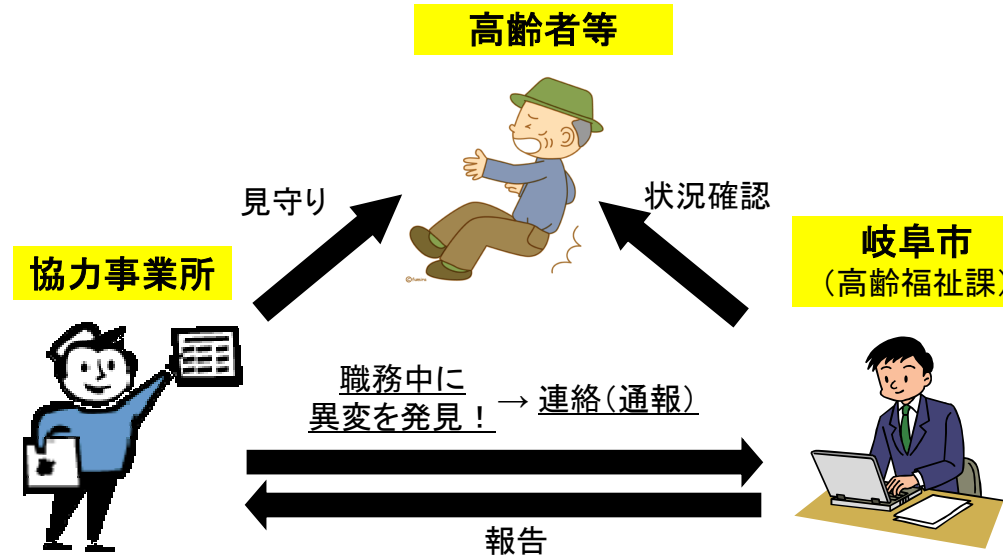
(備考) 内閣府資料を参考に重回帰分析により行った。
 今回の分析は、あくまでも一部の指標について、内閣府に
 よる分析を行ったものである。(説明変数や有意水準の設定に
 よっても結果は異なってくる)。
 さらに検討を深めていく必要があるが、ソーシャル・キャピ
 タルが県民生活において、社会での問題解決能力の向上等
 を通じて有益な成果をもたらす可能性があることが示唆され
 る。

(備考) 内閣府委託調査「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」(委託先:株日本総合研究所)、総務省「社会生活基本調査」(2006年)、社会福祉法人中央共同募金会「募金統計」(2009年)により作成。

2 県内の事例

仕組み

- ・協定を結んだ市内の新聞販売店や郵便局、電気、ガス、水道などの25事業所が配達先の高齢者宅に異変があった場合、市へ連絡。
- ・支援が必要な場合は、市地域包括支援センター、民生委員、関係課等と連携し、必要な措置を行う。



市担当者の評価

- ・まだ1年しか経過していないため、事業効果はわからないが、市民の方々の意識に働きかけるとい意味では、有効に機能していくのではないか。

1年間の実績

【通報件数：3件（1件：新聞販売店、2件：近隣住民）】

・新聞販売店からの通報

新聞受けに新聞がたまっているとの通報を受け、状況を確認したところ、ひとり暮らし高齢者が倒れていた。幸い意識があり、一命を取り留めた。

高山市(高根地域): のくとい館(H20. 12~)

○目的

健康状態が悪化し、先行きに不安を感じるひとり暮らし高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる場として設置(主体:高山市社会福祉協議会)

○施設概要

- ・雪の多い厳寒期(12月~3月)を、ひとり暮らし高齢者等が助け合いながら集団生活するための共同住宅
- ・学校の統廃合で使用しなくなった教員住宅を活用



○利用料金

ひとりの場合 個室 15,800 円/月

※朝夕の食事は賄い。入居料の足しにしようと、寒干し大根の袋詰めや、お手玉作りなど内職に取り組むお年寄りも。



○利用条件

自分のことは自分でできる人

○入居者

13人(2011年1月現在)

○利用者の声

「このような施設ができ、安心して暮らせる」



○家族の声

「これまでは常に一人で暮らす親の心配をしていたが、のくとい館に入居させていただいたおかげで、この冬は安心して過ごすことができた」

3 素朴な疑問集

抽象的で、なかなか実感を抱きにくいテーマであったことから、
いくつか浮かんだ素朴な疑問を各氏に投げかけ、
それぞれの考え方、思いを得た。

つながりがないと問題なのか？

○39歳男性

- ・新潟出身、都心でひとり暮らし
- ・若い頃に両親離婚、母親は育児放棄
- ・非正規で働くもうつ病となり生活保護

【コメント】

「人はつながりがないと生きていけない」、「人と話す、感謝されること＝生きている証」
「悩みを相談できること、役に立てること＝生きている証」

○31才男性

- ・山口県出身
- ・高校卒業後名古屋で働くも派遣切りに。
- ・夜行バスで東京新宿へ。年越し派遣村で過ごした後生活保護

【コメント】

「社会とのつながりが実感できない。社会の役に立っていない」と自殺未遂を図る。

○団塊世代男性

- ・未婚。体調を崩して職を辞し、派遣で働くも現在は無職

【コメント】

- ・人とのつながりがなければ、存在しないのと一緒に
- ・人とのつながりというのは、自分の存在の確認みたいなもの

○ひとり暮らし高齢者

【コメント】

- ・3カ月誰とも会話しない生活を一度経験してみてください。人は、1か月誰とも会話をしないと次第に声を失い、人と会うことが億劫になり、鬱状態に陥る。
- ・ひとり暮らし高齢者の消費者トラブルが問題になっているが、彼らの中にはただ、人と話したいだけという人もいる。

○アリストテレス

人間は社会的動物である。



- ◆人と話さない人は、自分の存在価値を見失っていく。
どんな場面でもよいので人とつながり、人と会話をし、その中で自分の存在と役割を感じられて初めて生きていくことができる。どんなつながり方でもよい。そういう場を持つことができない人がいるならば、そこに手を差し伸べ、生きる意欲を再び持ってもらうことが必要。
- ◆雇用不安が増大する今の世の中では誰もが「無縁死、明日は我が身」と既に自覚し、不安に思っている。そのことを自覚していないのは公務員やそれに準ずる職業の人、ごく少数だけでは？

つながりって本当に希薄化しているのか？

- 客観的な指標でつながりの度合いを示すことはできないが、住民、識者へのヒアリングを通して、人と人とのつながりの希薄化を伺い知ることができる。また、人口構造、世帯構造、雇用環境、住環境などから、つながりの希薄化というものは、今後、現代の社会の課題のひとつとしてますます大きくクローズアップされてくることが推察される。

日本各地どこでもやはり状況は同じなのか？

- 人口構造、世帯構造、雇用環境、住環境などの社会的な事情は、岐阜県も全国とほとんど変わらない状況にあることから、同じく、つながりの希薄化というものは、課題のひとつとしてクローズアップされてくることが推察される。
- ただし、県内での孤立の状況がどのようなものなのかは、さらに広く調査を試みる必要がある。各地固有の状況が見えてくるかもしれない。

そもそも孤独死って問題なのか？

・岐阜市内某地区の住民

【コメント】

- ・一人暮らしの方で突然亡くなってしまうということはやむを得ない。孤独死自体は防げない。
- ・地域の中で事故はないか、困っていることはないか、助けられることはないか、近所で助け合って、誰かが誰かを気に掛けながら、頼りながら、頼られながら安心して暮らせる町にしていくことが大事。

○一人で生き、一人で死んでいく(かもしれない)状況に直面する前に、日常からの健康の維持増進、体調管理、不測の事態が起きたときの備え(遺言、遺品、万一の連絡先確保など)は、個々の努力として必要。

孤立に伴って目に見えてくる現象は孤独死だけ？

○孤独死だけではない。自殺、虐待、ひきこもり、DV等、様々な社会問題の背景にも、「孤立」という問題が潜んでいるのではないか。
(「孤立」がそれら現象の原因のすべてではないが。)

公的な社会保障サービスによる支援体制 制度を充実させれば十分なのではないのか？

・ひとり暮らし高齢者

【コメント】

- ・必要なのは、社会保障といった行政サービスではなく、「身近な話し相手」、「ご飯を一緒に食べてくれる人」、「生きている時の苦しみ、不安、心配事の相談にのり、それをやわらげ、取り除いてくれる人」

○公的制度の充実はもちろん必要。

ただ、制度はその時々为社会情勢、人口など、あらゆる条件を加味して、常に変革していなくてはならない。永遠に有効な制度は存在しない。結局、持続的な力を発揮するのは制度をつくる人間の絆である。それがなければ、制度も作れない。

自治会や町内会などの昔ながらの地縁団体の存在意義 を見直し、加入率を高めればいいのか？

○地縁団体への加入率は全国的に見てもそれほど悪くない。

本県では、加入率が90%を超える団体が71.5%に上る。

他方で地縁団体の活動に参加していない人の割合は51.5%に上る。

○この状況を改善していくのはなかなか難しい。大事なことは、地縁やNPO、ボランティアといった形ではなく、その人に合ったやり方・関わり方で、人とのつながりを育むこと。行政はそのための場づくりをすることが大切ではないか。

結局は余計なお世話ではないのか？

- もしも、孤立の原因が本人の怠惰のみにあるとするなら、本人が勤勉になりさえすれば孤立を解消できるということ。孤立の度合いが深刻であればあるほど、その状態から抜け出すために、人はより勤勉になろうとする。つまり、孤立は勤勉のインセンティブになるという理論的な意義づけがなされてしまう。
- しかし、失業し、稼ぎを失い、病気になり、家族を失い、地域とのつながりもなく、まさに社会的に孤立するというリスク、不安は、実感を伴わないだけであって、多くの人が抱えている。
- つながりがないことを問題視し、悲しく思い、不安を感じる人が確かにいる。そういう人が存在する以上、その不安の背後にある事実を明らかにし、それを少しでも緩和する努力をする必要がある。